

特集1 モーダルシフトの推進により物流構造を改革し、CO₂削減を目指す

リンテックでは、地球温暖化防止対策の一環として、貨物輸送をトラックから鉄道や船に転換する「モーダルシフト*」を推進しています。担当者の声を基にこれまでの取り組みを振り返るとともに、活動の成果を紹介します。

* モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO₂排出量削減を図る取り組み。

トラック輸送からRORO船*輸送に転換し、CO₂排出量と輸送コストを削減

近年、モーダルシフトは地球温暖化対策として注目されているほか、トラックドライバーの不足や過重労働、道路混雑など、さまざまな社会問題の改善につながる取り組みとして期待されています。リンテックでは現在、拠点間の物流を中心としたモーダルシフトを推進しています。きっかけとなったのは、洋紙事業部門の取り組みです。同部門の藤嶋洋（以下、藤嶋）が振り返ります。

* RORO船：ロールオン（Roll on）・ロールオフ（Roll off）船の略称。貨物を積んだトラックが、そのまま船内外へ自走できる貨物船。



洋紙・加工材業務部 部長
藤嶋 洋

「最初にモーダルシフトの話が持ち上がったのは、2013年の4月頃でした。洋紙事業の基盤強化会議の重要テーマの一つとして、物流コスト削減のために従来のトラック輸送に代わる輸送手段の検討を行いました。私たち自らが少しでもモーダルシフトに関与することも考慮に入れながら、陸路、海路を問わず、さまざまな輸送方法を検討した結果、選択したのがRORO船による輸送でした」（藤嶋）半年後の2013年10月、三島工場で製造した製品を搭載したRORO船の第一便が、三島川之江港を出港しました。以降、100t/月（2015年7月より180t/月）の製品が千葉中央港を経由して関東の営業倉庫やお客様に届けられ、2014年9月以降は熊谷工場から四国への製品輸送（100t/月）にもRORO船を活用しています。

「RORO船輸送へ切り替えるために、物流会社との交渉や社内での出荷・荷受体制の調整など苦労もありました。しかし、結果として輸送時のCO₂排出量を削減すると同時に、輸送費のコストダウンも実現しました。モーダルシフトを実行し、大きなメリットを感じています」（藤嶋）



荷崩れを防ぐため、トラック荷台内で積載品を固定【写真左】するとともに、船内においてもトラックを固定【写真右】

各拠点の物流データを調査し、モーダルシフトを実施すべきルートを特定



コスト改革推進室長
下鍋 明男

この取り組みに注目したのが、下鍋明男（以下、下鍋）が室長を務めるコスト改革推進室でした。

「コスト改革推進室では、全社的な輸送コストの削減に向け、さまざまな取り組みを実施していました。しかし、省エネルギー法や、将来的なトラックドライバーの人口減少に対応していくためには、より抜本的に物流方法を見直す必要があると考えていました。洋紙事業部門の取り組みは、まさに私たちが思い描く物流構造改革の実例だったのです」（下鍋）

2014年4月、札幌支店が先導し、龍野工場から札幌への製品出荷の一部をトラック輸送からRORO船輸送へ切り替えました。さらに並行して、全国の拠点から物流データを取り寄せ、一件一件の輸送距離やコストの調査を実施。全社的な物の流れを正確に把握した上で、モーダルシフトを行うべき輸送ルートの特定を進めていきました。

「調査結果を踏まえて検討を重ねた結果、輸送距離500km以上のルートをモーダルシフトへの切り替え候補とすることに決めました。500km以上であれば、モーダルシフトの優位性を発揮し、CO₂排出量の削減につながることが分かったのです」（下鍋）

輸送ルートの条件に応じて、鉄道輸送への切り替えを選択



コスト改革部 副部長
飛世 義弘

リンテックでは、トラックからRORO船輸送への転換のほか、鉄道輸送に切り替えるモーダルシフトも実行しています。2015年6月、札幌支店が静岡県の外注先から製品を輸送する輸送ルートの一部を鉄道輸送に転換しました。担当したのは、コスト改革部の飛世義弘（以下、飛世）です。

「RORO船を利用するには輸送量が少なく、また、航路の関係もあり、鉄道輸送を選択しました。モーダルシフトと一口に言っても輸送方法は複数あり、輸送ルートや諸条件に応じて最適な方法を選択することが大切です」（飛世）

静岡～札幌間に続き、2016年5月には、兵庫県の龍野工場から埼玉県東京リンテック加工（株）に輸送する製品や仕掛品の一部を鉄道輸送に転換しました。本輸送では、鉄道会社との協議を重ね、大型トラックと同等の積載容量13トン（内容積48m³）を持つ鉄道コンテナを活用しています。

「モーダルシフトは国を挙げて推進されています。今回採用した鉄道コンテナも鉄道業界によるモーダルシフト対策の一環として開発されたもので、私たちのニーズとも合致したのです」（飛世）



大型トラックと内容積が同等の鉄道コンテナで輸送することにより輸送効率が向上



環境安全部 副部長
石倉 一仁

環境安全部の石倉一仁（以下、石倉）は、“環境活動”としての視点から、モーダルシフトの優位性を説明します。

「環境安全部では、工場を中心に環境活動を推進していますが、生産工程でCO₂削減効果を高めるためには、設備を改善するなど、投資を要する場合がほとんどです。モーダルシフトは、CO₂と輸送コストを両方削減できる取り組みであり、企業が行う環境活動としては有効であると考えています。また、社会的に求められているサプライチェーン全体で実施するCO₂削減活動の一端を担うという意味でも、重要な取り組みです」（石倉）

洋紙事業部門がきっかけをつくり、コスト改革推進室が全社的な取り組みへ展開しようとしているモーダルシフト。今後、鉄道・船舶輸送を各輸送ルートに採用し、より環境負荷の低い物流構造を構築していく予定です。

モーダルシフトによるCO₂削減効果



注) モーダルシフトを実施した部分について、全てをトラックで輸送した場合の算出値を100として比較したグラフです。

モーダルシフトの主な実施部分

- RORC船輸送
- 鉄道輸送
- トラック輸送



★マークについては [こちら](#)

特集2 【CSRワークショップ】 企業価値創造につながる「攻めのCSR」実現のために

2015年、リンテックグループは、ステークホルダーからの要請に応え、社会とともに持続的に成長していくために、社会的課題解決につながる新たなビジネスモデルや仕組み創出の実現を目指した「CSRワークショップ」をスタートさせました。



持続的成長を支える「創造」の精神

リンテックグループは、中期経営計画「LIP-2016」の重点テーマのひとつに「革新的新製品の創出」を掲げており、社会に新たな価値を提供し、持続的に成長していくことを目指しています。これを実現し、変化する社会やステークホルダーの期待に対応していくために重要なのが「攻めのCSR」の実践だと考えています。

リンテックグループでは、社は「至誠と創造」を根幹にあらゆる事業活動を行っています。CSRにおいてもそれは同様です。事業活動の基本である「守りのCSR」が「至誠」の精神であり、革新的な製品づくりなどの「攻めのCSR」は、「創造」の精神がその発想力の源泉となっています。従業員一人ひとりが、さらに「創造」の精神を発揮し、価値創造型企業へと進化していくためにスタートしたのが若手・中堅従業員を中心とした「CSRワークショップ」です。

従業員一人ひとりの「攻めのCSR」実践

初年度である2015年の「CSRワークショップ」は、組織横断的にさまざまな部署から36人の若手・中堅従業員が参加し、約半年にわたって全5回開催されました。ワークショップを通じて、CSRの本質や手法を学び、従業員一人ひとりが「攻めのCSR」を実践できるようになることが目的です。36人が6チームにわかれ、毎回議論を重ね、社会的課題起点でリンテックグループの新たなビジネスモデルや仕組み創出と提言を目指しました。また、各回社外ゲストによるセミナーも開催し、新たな知見や気づきを得るきっかけとなりました。

リンテックグループとして新たな価値の創造を目指す

第1回「社会的課題と事業のつながりを考える」では、国連SDGs*1など最新の社会動向を踏まえ、リンテックグループに関係する社会的課題を抽出し、第2回では、部署が異なるさまざまな立場からの視点で「自社の強み、弱み」は何かという意見を出し合いました。第3回は、それまで話し合った社会的課題と強み・弱みをベースに、「2030年のあるべき姿」をバックカスティング*2で考え、そのために今すべきことを各チームでまとめました。第4回は、提言に向けた各チームの事前発表を行いました。他チームへの意見や感想も積極的に出し合い、内容をさらに見直し、改善していきました。こうして、最終回では、6チームそれぞれが導き出した社会的課題を解決するためのビジネスモデルを発表しました。各チームが半年かけて議論を重ね、アイデアを出し合った内容は、LINTEC WAYにもある「ユニークさ」や「可能性」を感じさせるものもあり、今後の具体化に向けた動きも出てきています。

*1 SDGs：2015年9月に国連で採択された、17の目標と169のターゲットで構成される「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」

*2 バックカスティング：未来を考える上で、目標となるような状態・状況を想定し、その想定から現在に立ち返って、今何をすべきかを考える手法。

それぞれのCSRの実践

こうして幕を閉じた第1期「CSRワークショップ」。参加者からは、「CSRと事業のかかわりをこれまで以上に意識するようになった」「イノベーションはさまざまな人とのコミュニケーションで生まれるものだと感じた」「攻めのCSRというさまざまな課題に向かう姿勢は全従業員が持つべき」といった感想が寄せられました。各回のワークショップは非常に内容の濃いものとなり、参加者はCSRの本質について認識すると同時に、各職場での実践につなげていくきっかけとなりました。

今後もワークショップなどを通じて、従業員一人ひとりが「創造」の精神で「攻めのCSR」を実践できるよう、取り組みを続けていきます。

参加者の声

- ワークショップを通じて日頃かかわりのない部署の仲間と議論し、考え、ゼロから作り上げた達成感が入社後初めてです。参加できてよかったと思いますし、個人的にも視野が広がったことを実感しています。
- 事業規模に関係なく、企業も社会を変えられることができると気が付きました。これは日々の仕事へのモチベーションにもつながっています。
- 非常に難しい内容でしたが、この課題解決を通じて、CSRの重要性を改めて認識しました。回を重ねるごとにテーマにのめり込んでいき、非常に有意義な時間でした。
- 学んだことを業務に活かしていきたいと思います。特に他部署の方々と交流、意見交換ができた点も今後の財産になると感じています。
- 特にバックカスティング手法が印象に残っており、これからの業務にも使っていける考えなので、取り入れていきたいと思っています。

トップメッセージ

「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、
社会に貢献していきます。

リンテック株式会社 代表取締役社長 社長執行役員

西尾 弘之



熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

「LIP-2016」を指針に、飛躍に向けた事業活動を推進しています。

リンテックグループは、粘着素材分野のリーディングカンパニーとして、粘着応用技術や表面改質技術などの独自技術から生まれた多彩な製品を提供してきました。

また、2014年度からは、中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」で掲げた「グローバル展開のさらなる推進」「次世代を担う革新的新製品の創出」「強靱な企業体質への変革」「戦略的M&Aの推進」「人財の育成」の5つを重点テーマに、さらなる飛躍に向けた事業活動を推進しています。

中期経営計画「LIP-2016」(2014年4月1日～2017年3月31日)

基本方針

攻めの経営と中断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す

重点テーマ

1. グローバル展開のさらなる推進
2. 次世代を担う革新的新製品の創出
3. 強靱な企業体質への変革
4. 戦略的M&Aの推進
5. 人財の育成

経営目標の実現に向け、グローバル展開を推進しています。

「LIP-2016」における重点テーマの中でも、「グローバル展開」は「海外売上高比率40%以上」の実現を経営目標とする私たちにとって最重要課題になります。

同分野における取り組みの一つが、2015年9月にベルギーで開催された世界最大のラベル関連展示会「LABLEXPO EUROPE 2015」への本格出展です。大規模な展示ブースで新製品を主体に紹介し、欧州をはじめ世界のユーザー各社にリンテックグループの優位性をアピールしました。また、同展示会において、当社の再生PETラベル素材が評価され、サステナビリティ部門「ラベルインダストリー・グローバルアワード」を日本企業で初めて受賞しました。

2015年12月には、クリーン粘着塗工設備がタイに完成しました。これにより、付加価値の高い製品を、東南アジアを中心にアジア各国へスピーディに展開していく基盤が整いました。

こうした事業活動のグローバル化に伴い、国境を越えて事業領域が拡大し、関係するステークホルダーも多様化する中で、国際基準でのガバナンスやリスク管理、コンプライアンスの強化に取り組んでいます。

革新的新製品の創造に向け、ハード・ソフトの両面を強化しました。

リンテックグループが持続的成長を遂げていくために、グローバル展開と同様に重要になるのが、「革新的新製品の創出」です。このテーマにおいては、ハード・ソフト面において着実な進展が見られました。

ハード面（施設）では、研究所の新棟「先端技術棟」が本格始動しました。本施設で新規材料の開発と量産化のプロセス開発を一貫して行うことで、革新的新製品の市場投入を加速させていきます。

ソフト面（文化）の取り組みとしては、「攻めのCSRワークショップ」の開催が挙げられます。組織横断的に各部門の若手・中堅社員が参加し、計5回のワークショップを通じて社会的課題の改善・解決につながる新たなビジネスモデルについて考察しました。本ワークショップにおいて、ユニークかつ実現性の高いアイデアも見られ、より具体的に進めていくことも検討しています。

今後も既存の枠組みにとらわれない自由な発想で、革新的なビジネスモデルづくりに取り組んでいきたいと考えています。

マテリアリティ（重点課題）の達成状況を測る指標を設定しました。

リンテックグループは、2014年度にマテリアリティ（重点課題）を特定し、2015年度は、特定した項目ごとに主要な評価指標*を設定しました。そのことにより、個々に対応していた部分最適から、リンテックグループが一体となって取り組む全体最適化をさらに進めていくことができると考えています。

今後は、各項目の目標達成に向けたプロセスの実施状況を確認しながら、CSR活動のPDCAサイクルを回していきます。

* 主要な評価指標：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

至誠を尽くした行動の先には、信頼があると信じています。

これまで述べてきたCSR活動の根底にあるのは、社是「至誠と創造」の精神です。

よりグローバルな新しい領域への事業展開や、前例のない革新的新製品を生み出そうという試みは、「創造」の精神なくして成し得ません。

一方で、こうした創造的な取り組みにチャレンジしていく上で、強固な事業基盤を構築することが不可欠です。そのためには、法令遵守や公正な取引、人権の尊重、働きやすい環境づくりなど、全ての仕事に誠心誠意取り組む「至誠」の精神が欠かせません。ものごとを判断する上で大切なことは、“損得”ではなく“善悪”で判断することであり、至誠を尽くした行動を続けることで、必ずお客様や社会からの信頼獲得にたどり着くことができると信じています。

これからも全従業員が一丸となり、「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、ステークホルダーの期待に応え、社会に貢献していきます。

本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解いただくために、2015年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

リンテックグループのCSR



◆ 社是 至誠と創造

◆ 経営理念

社名の「リンテック」、すなわち「リンテージ(結合)」と「テクノロジー」および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」
For tomorrow we build today

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。
全ての従業員が社是の下、CSR活動に取り組んでいます。



リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であるために、社は「至誠と創造」を根幹に置き、社を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSRの基本姿勢」「行動規範ガイドライン」の通り、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

また、2014年4月からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」の実現のためには、グループ経営の強化が重要であり、グローバルでのCSR活動を継続的に進めています。リンテックグループでは、CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、本業を通じたCSRを実践するため、特定したマテリアリティに基づき、2015年度は新たに主要な取り組み指標*を設定しました。PDCAサイクルの実践による戦略的なCSR活動を行っています。

* 主要な評価指標：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心を一にし、同じ方向を目指すための道標として「LINTECWAY」を策定しています。「LINTEC WAY」は、社は「至誠と創造」を支える大切な価値観として、10の心得から成り立っており、リンテックグループ従業員のあるべき姿として明文化されたものです。

○至誠を育む5つの心得

1 誠実であり続ける

私たちリンテックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはうそ偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人とのかわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

2 真心は通じる

私たちリンテックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができる我们相信からです。

3 喜びをつくらう

私たちリンテックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えからです。そのためには私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組みます。

4 与える人になる

私たちリンテックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが貢献に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながると信じているからです。

※利他とは「他人の喜びをまず第一とする考え方」。

5 仲間と家族を大切にする

私たちリンテックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

○創造を育む5つの心得

1 成功するまで粘る

私たちリンテックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり続けます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

2 ユニークを誇ろう

私たちリンテックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンテックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

4 地球視点で考える

私たちリンテックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を継続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンテックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。

リンテックグループのCSR

リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

「国連グローバル・コンパクト」への参加

リンテックグループは2011年4月から、「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

人権

原則 1 : 人権擁護の支持と尊重

原則 2 : 人権侵害への非加担

労働基準

原則 3 : 結社の自由と団体交渉権の承認

原則 4 : 強制労働の排除

原則 5 : 児童労働の実効的な廃止

原則 6 : 雇用と職業の差別撤廃

環境

原則 7 : 環境問題の予防的アプローチ

原則 8 : 環境に対する責任のイニシアティブ

原則 9 : 環境にやさしい技術の開発と普及

腐敗防止

原則10 : 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

ISO26000

「ISO26000」はあらゆる組織における社会的責任に関する国際標準規格です。リンテックグループでは七つの中核主題を参考に、CSR活動を推進しています。

七つの中核主題

社会的責任の中核主題		組織統治
	組織統治	意思決定プロセス及び構造
	人権	(1)デュー・ディリジェンス (2)人権リスク状況 (3)共謀の回避 (4)苦情処理 (5)差別及び社会的弱者 (6)市民的及び社会的弱者 (7)経済的、社会的及び文化的権利 (8)労働における基本的権利

	労働慣行	<ul style="list-style-type: none"> (1)雇用及び雇用関係 (2)労働条件及び社会的保護 (3)社会的対話 (4)労働における安全衛生 (5)職場における人材育成及び訓練
	環境	<ul style="list-style-type: none"> (1)汚染の予防 (2)持続可能な資源の使用 (3)気候変動の緩和及び適応 (4)自然環境の保護及び回復
	公正な事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> (1)汚職防止 (2)責任ある政治的関与 (3)公正な競争 (4)影響範囲における社会的責任の推進 (5)財産権の尊重
	消費者課題	<ul style="list-style-type: none"> (1)公正なマーケティング、情報及び契約慣行 (2)消費者の健康及び安全の保護 (3)持続可能な消費 (4)消費者サービス、支援及び紛争解決 (5)消費者データ保護及びプライバシー (6)不可欠なサービスへのアクセス (7)教育及び認識
	コミュニティ参画及び コミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> (1)コミュニティ参画 (2)教育及び文化 (3)雇用創出及び技能開発 (4)技術開発 (5)富及び所得 (6)健康 (7)社会的投資

ステークホルダーとのコミュニケーション

社会からの期待に応えるために、リンテックグループはステークホルダーの皆様と積極的な対話を図っています。

お客様	製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の上を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外の展示会 ■ お問い合わせ窓口 など
お取引先	公正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説明会 ■ アンケート など
地域社会	地域の方々との相互理解、地域社会への還元を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工場見学 ■ 社会貢献活動 など
従業員	社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニケーションマガジン ■ イン트라ネット など
株主・投資家	企業価値の向上と信頼関係の構築を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 株主総会 ■ IRミーティング ■ 海外投資家訪問 ■ 株主通信「WAVE」 ■ ホームページ など

リンテックグループのバリューチェーン

お取引先やバリューチェーン全体を通じて、CSRに取り組んでいます。



©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

マテリアリティ（重点課題）

リンテックグループは、CSR活動のさらなる推進とステークホルダーからの要請に応えていくため、2014年度に右のSTEP1からSTEP3に沿ってリンテックグループにとってのマテリアリティを特定しました。そして、2015年度は主要な評価指標*を設定しました。

* 主要な評価指標：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

マテリアリティの特定と主要な評価指標の設定プロセス

STEP1 課題の抽出

ISO26000やG4など各種ガイドラインやステークホルダーとのコミュニケーションなどから、検討すべき「CSR関連課題」を抽出しました。

STEP2 優先順位づけ

「リンテックグループにとっての重要性」と「ステークホルダーにとっての重要性」の二つの観点から、抽出した課題に優先順位をつけました。

STEP3 妥当性の確認

社外有識者の方やCSRに関する最高意思決定者である社長による評価・承認を得ました。

STEP4 主要な評価指標の設定

特定したマテリアリティを開示。取り組みの進捗状況を踏まえ、2015年度は主要な評価指標を設定しました。

マテリアリティ		組織的(オンパレ) CSR項目		測定背景	あるべき姿	取り組み	主要な評価指標
		社内	社外				
経営統治	グローバルオペランスの推進	○	○	グローバルに事業を展開する上で、各地の法規制やレベルを踏まえ、高度の倫理的グローバル標準準拠の構築と高い品質の提供が、各社の成長を促し、競争力を高める必要がある。	管理体制の強化と運用に努める。	グローバルオペランス体制の強化	(1) 国内外の法規制の遵守 (2) 倫理的な法令と社会規範に準拠し、透明性の高い経営活動
環境	原材料の効率的な利用	○	○	石油由来のプラスチックを多く用いる。資源の枯渇は社会の持続可能性に影響を及ぼす。また、調達において安定性の高い調達先を選定し、廃棄物の削減と、環境的な取り組みを推進する必要がある。	環境負荷低減と 法規制遵守に努める。	リッチェック原材料調達標準に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動	環境負荷の削減
	大気への排出物の削減	○	○	温室効果ガス、オゾン層破壊物質、VOCsなど、大気への排出物削減。地球全体に影響を及ぼすものへの配慮が求められている。廃棄物の削減と、環境的な取り組みを推進する必要がある。		環境負荷低減に努め、大気への排出物の削減	(1) 製造過程におけるCO ₂ 排出量 (2) VOCs排出量
	製品およびサービスを通じた環境負荷の削減	○	○	製品のライフサイクル全体において、環境負荷への配慮が必要であり、LCA*の活用が不可欠である。さまざまな環境負荷削減の取組を推進する必要がある。		LCAを考慮した環境配慮製品の開発・普及	環境配慮製品の開発・普及
	調達活動でのコンプライアンス対応	○	○	環境規制は地域によって異なるため、調達活動や取引先との協力を、各社が環境や法令に準拠する必要がある。また、調達先からの情報収集も重要である。調達活動でのコンプライアンス対応に努める。		環境マネジメントシステムによる、調達活動でのコンプライアンス対応と監視	環境法も遵守する
労働慣行	労働安全衛生への対応	○	○	国内外の労働安全衛生に関する法規制は、法規制と国際的な標準に準拠している。また、メンタルヘルスへの対応も重要になっている。	安心して働ける職場環境を整備するとともに、緊急時における従業員の安全を確保する。	労働安全衛生マネジメントシステムに準拠し、労働安全衛生のための活動を実施	(1) 労働安全衛生管理計画 (2) 安全衛生訓練
	職場におけるダイバーシティの実現	○	-	働き手や顧客の多様性を活かすには、ダイバーシティ(ジェンダー、マイノリティ、LGBT**など)への配慮が重要であり、経営的な競争優位の確保として多様な人材の活用が求められる。		従業員への多様性を尊重し、働きやすい職場環境の整備	(1) 多様な管理職比率 (2) 女性・介護者採用の比率
	従業員満足度の向上	○	-	従業員が主体的に重要なタスクを担い、企業価値の向上に貢献し、従業員が誇りを持って働き、成長が図れることが重要である。		従業員が誇りを持って働ける職場環境の整備	3年ごとの離職率
社会	人権デューデリジェンスへの実施	○	○	国際的なグローバルに広がっている「サプライヤーにおいて人権リスクを把握し、適切に対応し、リスクを軽減する」ことが人権デューデリジェンスの重要な要素になっている。	ステークホルダーに配慮したグローバルコミュニケーション推進に努める。	サプライチェーン全体の労働者への人権への配慮およびリスクの把握	サプライチェーンアンケート調査の回答件数
	社会面でのコンプライアンスへの対応	○	○	社会面に関する法規制は、地域によって異なるため、法規制や倫理規範の把握が必要。各社の自主規制としてグローバルな倫理規範を推進・実施していく必要がある。		社会面でのコンプライアンスの推進と監視	役員・管理職を対象としたコンプライアンスアンケート調査の回答率
	製品面でのコンプライアンスへの対応	○	○	製品に関する法規制は地域によって異なるため、法規制や倫理規範の把握が必要であり、LCA*の活用が不可欠である。さまざまな環境負荷削減の取組を推進する必要がある。		環境マネジメントシステムによる製品の環境・社会面でのリスクの把握	重大製品事故発生件数
	持続可能な消費への貢献	○	○	さまざまな法規制に関する規制メカニズムとして、消費者の関心および行動を促進する必要がある。		ステークホルダーへの環境配慮活動の推進と連携	国内外委員会への出席回数(3社併計)
	地域コミュニティとの共生を実現	○	○	グローバル展開を進める中で、地域コミュニティとの共生を実現し、企業価値向上に貢献する必要がある。また、社会との共生を図るためのさまざまな取組を推進する必要がある。		社会貢献活動として、地域社会への社会貢献活動の実施	(1) 工場見学や工場見学会への参加 (2) 社会貢献活動の実施
事業面での貢献	新興国における地域経済のビジネスモデルの構築	○	○	新興国の市場機会を捉え、事業面への貢献を期待している。法規制や倫理規範の把握が必要であり、LCA*の活用が不可欠である。また、社会との共生を図るためのさまざまな取組を推進する必要がある。	環境や社会に配慮したビジネスモデルの推進と社会的課題解決に寄与する事業の創造に努める。	環境・社会課題の解決に向けた取組の推進	海外拠点での環境・社会課題解決に向けた取組
	新規分野への参入	○	○	環境・社会課題の解決に向けた取組を推進し、グローバルな競争優位の確保を図る必要がある。また、社会との共生を図るためのさまざまな取組を推進する必要がある。		環境・社会課題の解決に向けた取組	新規分野(3社併計)

- *1 LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。
- *2 LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害など）の頭文字で、性的少数者の総称の一つ。
- *3 人権デューデリジェンス：組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するためにそれに対処するプロセス（ISO26000 6.3.3人権に関する課題1）をいう。グローバルに対応が求められる「ビジネスと人権に関する指導原則」における「保護、尊重および救済」の枠組みを踏まえたもの。
- *4 SCM：サプライチェーンマネジメント。材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れを最適に整理・管理していくこと。

暮らしの中にあるリンテック

リンテックは、粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



|| 建物用ウィンドーフィルム

窓ガラス全面に貼ることで、震災などによるガラス破損時の破片の飛散・落下防止効果をはじめ、紫外線カット、断熱、防犯対策、プライバシー保護などのさまざまな機能を発揮するウィンドーフィルム。透明タイプや着色・反射タイプなど多彩なアイテムをラインアップしており、特に安全対策や節電対策といった観点から、昨今非常に注目を集めています。



|| マーキングフィルム

耐候性、耐熱性、耐水性、耐油性などさまざまな優れた特徴を備えた、豊富なカラーバリエーションの耐久性粘着フィルム。屋外看板や車体のロゴなどに最適です。また、大判デジタルプリントにより多彩なビジュアル表現が可能な各種素材もラインアップ。商業施設の大型広告や、鉄道・バスなどのラッピング広告用途で幅広く使用されています。



|| 自動車用ウィンドーフィルム

自動車の窓ガラスに貼るウィンドーフィルム。豊富な色と質感のバリエーションで、ドライバーの感性に響く高級感のある外観・車内空間演出を実現します。同時に、優れた断熱性能により車内の空調効率を高め、快適空間を実現します。さらに、高透明タイプのアイテム各種、ラインアップしています。



|| シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム

各種商品のブランド表示用ラベルや、スタンドタイプのアイキャッチラベルなどをはじめ、自動車・電気機器などの銘板用・警告用ラベル、冷凍庫や冷蔵庫に入れたり、加熱処理したりする食品用ラベル、バーコード印字などにも適した物流用ラベル、さらにはウェットテッシュ用の開閉ラベルや、粘着メモなどに至るまで、実に多彩なラベル素材を開発し、ご提供しています。



|| 半導体関連テープ・装置

回路形成後の半導体ウェハを裏面研磨し、薄型化するプロセスに使われる回路面保護テープ、ウェハを一つ一つのチップに切断するプロセスにおいて、ウェハをリングフレームに固定するテープ、さらには切断後のチップ裏面にそのまま粘着剤を転写し、チップ実装・積層プロセスの簡略化に寄与するテープなど、実に多彩な高機能テープと、それを貼付・剥離する各種電子装置を開発しています。



液晶ディスプレイ用フィルム

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない偏光フィルム、位相差フィルムなどを貼り合わせるための粘着加工や、貼り合わせのための両面粘着シートの供給、さらにはディスプレイ表面へのきずつき防止や、蛍光灯などの映り込み防止のための、フィルム表面の防眩ハードコート加工などを行っています。



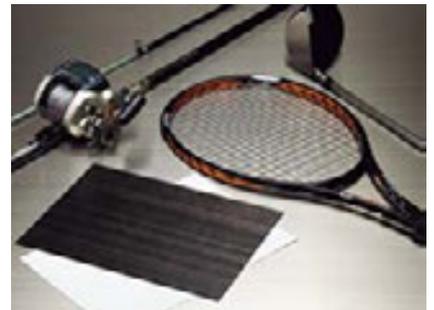
積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム

多くの電子機器に内蔵されている積層セラミックコンデンサーの製造工程において、極薄のセラミック層を形成するうえで不可欠な剥離フィルム。セラミックの誘電ペーストを薄く、均一に塗ることができ、かつきれいにはがせることが求められます。当社の剥離技術、精密薄膜塗工技術の粋を結集した製品です。



炭素繊維複合材料用工程紙

強く軽い素材として、ゴルフクラブや釣り竿、さらには航空機のボデー部材などに使われている炭素繊維(カーボンファイバー)。これを樹脂で固めてシート状にするプロセスにおいて、当社の工程紙と呼ばれる剥離紙製品が使用されています。はがしやすさはもちろん、耐熱性や寸法安定性も重要です。



特殊紙

豊富なカラーバリエーションや、一味違った風合いが持ち味のカラー封筒用紙をはじめとして、ホットドッグなどの食品包装用の耐油紙、クリーニングタグ用の耐洗紙、半導体工場などで使われるクリーンルーム用の無塵紙、自己消火機能を持った不燃紙など、実に多彩な特殊機能紙を各種開発し、提案しています。



リンテックグループの概要

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声にこたえ、よりよい社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



- 環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001認証取得拠点

日本

■ リンテック株式会社

- 本社●
- 飯田橋オフィス

■ (支店)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北陸支店
- 静岡支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 広島支店
- 四国支店
- 福岡支店
- 熊本事務所

■ (工場・研究所)

- 吾妻工場●
- 熊谷工場●
- 千葉工場●
- 龍野工場●
- 新宮事業所●*1
- 新宮事業所龍野事務所●*1
- 小松島工場●
- 三島工場●*2
- 土居加工工場●*2
- 新居浜加工所●
- 伊奈テクノロジーセンター●
- 研究所●

■ リンテックコマース株式会社

■ リンテックサインシステム株式会社

■ 富士ライト株式会社

■ リンテックサービス株式会社

■ リンテックカスタマーサービス株式会社

■ プリンテック株式会社

■ 東京リンテック加工株式会社●

*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

|| アジア

- 琳得科(蘇州)科技有限公司●
 - 北京分公司
 - 上海分公司
 - 深圳分公司
- 琳得科(天津)実業有限公司
- 普林特科(天津) 標籤有限公司●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(上海)社
 - 蘇州分公司
 - 天津分公司
 - 深圳分公司
 - 成都分公司
- マディコ社
 - 蘇州事務所
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社
- リンテック・ハイテック台湾社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社●
 - 新竹事務所
- リンテック・コリア社●
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(韓国)社
- リンテック・インドネシア社●
- リンテック・シンガポール社●
- リンテック・ジャカルタ社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(フィリピン)社
- リンテック・フィリピン(ペザ)社
- リンテック・タイランド社
- リンテック・バンコク社
- リンテック・ベトナム社
- リンテック・ハノイ・ベトナム社
- リンテック・インドア社
- リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社●
- リンテック・インダストリーズ(サラワク)社●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(マレーシア)社
 - クアラルンプール事務所
 - ペナン事務所

|| アメリカ

- リンテック USA ホールディング社
- マディコ社●
 - マディコ・ウインドーフィルムズ部門
 - マディコウエスト事務所
 - マディコサウスウエスト事務所
 - マディコミッドアメリカ事務所
 - マディコサウステキサス事務所
 - マディコサウスイースト事務所
 - マディコフロリダ事務所
 - マディコノースイースト事務所
- リンテック・オブ・アメリカ社
 - シカゴ事務所
 - ダラス事務所
 - ナノサイエンス&テクノロジーセンター

|| ヨーロッパ

- リンテック・ヨーロッパ社
 - ハンガリー事務所
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (ヨーロッパ)社
 - イスラエル事務所

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

至誠のために

リンテックグループの社是「至誠と創造」が示すように、「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めます。

コーポレート・ガバナンス

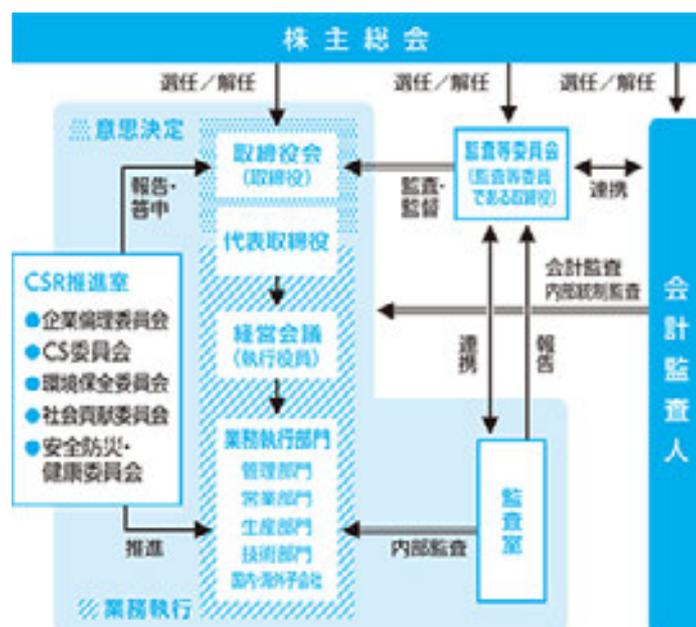
リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指します。

コーポレート・ガバナンス体制

リンテックでは機関設計*1として監査等委員会設置会社*2を選択しており、議決権のある監査等委員である取締役を置き、取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実とさらなる経営の効率化を図っています。

当社の社外取締役は4人で、うち3人が監査等委員である取締役となっています。その他の経営における具体的な取り組みとして、取締役の任期を1年とし、株主の皆様に対する取締役の責任を明確にしているほか、執行役員制度の導入により、経営の重要な意思決定を行う取締役と、業務の執行を行う執行役員とを分離しています。

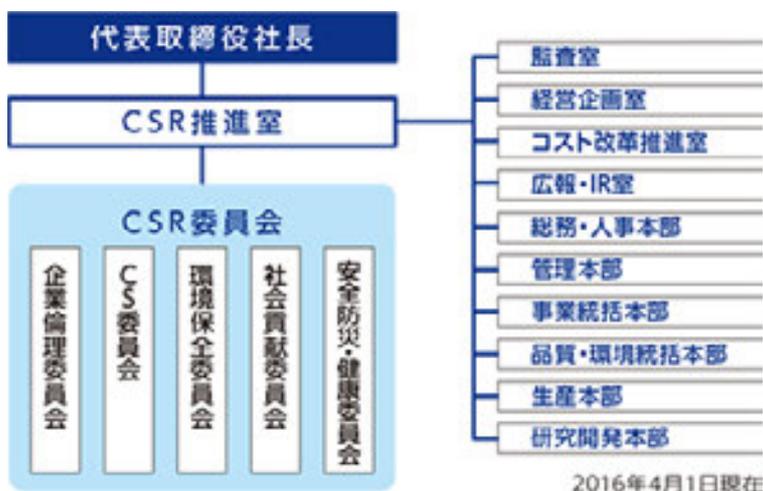
コーポレート・ガバナンス体制



*1 機関設計：株式会社の意思決定や運営などを行う「機関」（株主総会、取締役など）の構成を決めること。

*2 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上（過半数は社外取締役）で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

社長直轄のCSR推進室が、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR委員会の活動支援を行っています。CSR委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



Voice ガバナンス体制の充実を図る取り組み

「コーポレートガバナンス・コード*」が2015年6月に施行され、原則の73項目全てについて、リンテックの取り組み状況に照らし、不足があるものは経営トップや社外取締役と議論を重ね、現在も継続的な改善に取り組んでいます。また、監査等委員会移行などの取り組みは、原則に沿う内容であることを確認し、さらに役員向け研修や取締役会評価の仕組みなどを新たに取り入れました。今後も、ガバナンス体制の充実を図っていきます。

* コーポレートガバナンス・コード：コーポレート・ガバナンスの強化を図り、上場企業が守るべき行動規範の主要な原則を取りまとめたもの。



取締役常務執行役員
望月 経利

至誠のために

コンプライアンス

リンテックグループでは社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2016年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました（回答率2016年82.6%★、2015年79.1%、2014年85.7%）。また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しており、全ての従業員がこれらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。

★マークについては[こちら](#)



伊奈テクノロジーセンターでのCSR勉強会

人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2016年2～3月に、グループ全社を対象とした、人権および労働に関する実態調査を行いました★。法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成の調査により、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては[こちら](#)

独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、2015年度に、リーガルニュース（No.8）「日本の企業が外国の法律で裁かれる!? 外国の法律の域外適用について」を発行し、海外における法令対応について従業員への啓発活動を行いました。

また、行動規範ガイドラインにも「独占禁止法に関するガイドライン」を記載しています。

行動規範ガイドラインによる意識啓発

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子「行動規範ガイドライン」を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。2014年4月には内容を見直し、これを活用して2015年度も国内外でCSR勉強会を開催しました。

▶ [リンテックグループ行動規範](#)



|| りんりかわら版による倫理感の醸成

2006年度よりスタートした「りんりかわら版」は、従業員に求められる倫理観や行動規範を解説つきの川柳にし、イントラネットを通じ分かりやすく浸透を図る取り組みです。これらの川柳を小冊子「りんりかわら版 守ってマスク!?!」にまとめており、2016年3月発行のvol.9では、「どこでも至誠を」をテーマに海外赴任者の声を取り上げています。行動規範の遵守および倫理感の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。



©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

至誠のために

リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生の防止に努めています。四半期に1回のリスク洗い出しにより、状況の把握を行い、リスク管理能力の向上に努めています。

|| 全社BCMS*1の構築について

リンテックと東京リンテック加工（株）では、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、従業員の生命を守り、また製品の供給を継続し早期に事業を再開できるよう、BCP*2の策定に取り組んでいます。2014年3月にはBCMS国際標準規格「ISO22301：2012」*3の認証を取得しました。2015年度は、新たにリンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社を加え、BCMSを浸透させるために、活動の活性化と充実を図っています。

*1 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメント）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

*2 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*3 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックWEBなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

|| 情報セキュリティー管理

リンテックでは毎年、「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。

2015年11月には、企業倫理委員会がチェックシートによる「自己監査」を実施し、情報セキュリティー管理規程に定められた内容が各部署において正しく理解されていることを確認しました。また、2016年2月には、e-ラーニング「身近なセキュリティー・リスク1」を実施し、スマートフォンやSNSの使い方について注意喚起を行いました。

|| ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。迅速な相談と調査ができるよう、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えました。行動規範ガイドラインにヘルプラインを掲出するなどの社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決に努めています。

2015年5月には、対象を海外グループ会社にまで広げた「グローバル内部通報制度規程」を設け、英語での通報も可能としています。

至誠のために

「自ら考え、行動するBCMS」の構築を目指して

全社BCMS*1を構築し、ISO22301*2を取得した2014年3月から2年が経過し、リンテックのBCMSは、さらなる進化を遂げようとしています。

全従業員が一丸となって取り組む「自ら考え、行動するBCMS」の構築に向けた活動を紹介します。



*1 BCMS : Business Continuity Management System (事業継続マネジメント) の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

*2 ISO22301 : 地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックWEBなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

全従業員をBCMSのキーパーソンに

災害発生時に、人命を守り、事業継続に向けた応急措置および復旧活動を遂行するためには、従業員一人ひとりの的確・迅速な行動が求められます。リンテックグループでは、全従業員を“BCMSのキーパーソン”と位置づけ、「自ら考え、行動するBCMS」の構築を目指しています。具体的には、全社BCMS勉強会や拠点でのBCMS演習を定期的を実施し、従業員へのBCMSの浸透を図っています。また、内部監査を拠点間で相互に実施、BCMS評議会をオープンな環境で開催するなど、従業員が主体的にBCMSの構築に参加できる環境を整えています。家族用防災マニュアルの作成や、女性視点での備蓄品の準備など、従業員の意見を基にした施策が次々と生まれています。今後は、海外拠点も視野に入れながら、「自ら考え、行動するBCMS」の構築を進めるとともに、二重化の検証など、全社的に適応可能なルールとBCPの策定を促進していきます。

BCMS演習

各拠点の従業員が自ら演習内容を企画し、拠点ごとに事業内容や拠点の特性に応じた演習を実施しています。各拠点の演習内容は、社内イントラネットを通じて全社的に共有しています。

2014年度および
2015年度の
実施回数 **31** 拠点・**426** 回

全社BCMS勉強会

全従業員を対象に、BCMSの基礎知識を学ぶ勉強会を年数回本社で開催しています。

勉強会のようすは、テレビ会議システムにより全拠点に公開しています。



外部教育

BCMSの専門知識を有する外部講師によるワークショップを年1回開催し、各拠点から従業員が参加しています。勉強会で得た知識は、各拠点における演習に生かされています。



内部監査

各拠点のBCMSの運用状況を内部監査により確認しています。内部監査の約半数は、拠点間で監査を行う「相互監査」で実施しており、他拠点の取り組みを知り、改善し合う機会となっています。

従業員の意見や改善案はBCMS評議会では協議し、全社的な取り組みへと反映しています。評議会のようなテレビ会議システムで各拠点に公開し、従業員が閲覧できるオープンな環境で実施しています。

BCMSに関する従業員の意識とコメント

「BCMSの担い手」に、「リンテックグループで働く全ての人たち」と回答した従業員



- 社員一人ひとりの意識が大切だと思います。私も意識を持つことから始めていきます。
- 社員のみならずその家族にも影響を与えるものなので、継続していきたい。
- BCMSは顧客対応含め、企業の社会的責任を果たすためにも欠かせないものとする。
- 机上の空論にならないよう、現実に即した活動をしていきたいと思いません。

※ 社内アンケート（2015年3月実施／回答者数1,863人）より抜粋。

お客様のために

お客様からの期待に応えるために、製品の安定供給や品質管理を徹底し、より一層のサービス向上に努めています。

品質保証

リンテックグループの“ものづくり”は、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが品質を考え、環境と安全を意識し、お客様に喜んでいただける“ものづくり”に取り組んでいます。また、現状に満足することなくチャレンジ精神を持って、さらなる“安心”と“信頼”を届けることに努めています。リンテックグループは未来を見据えた“ものづくり”への挑戦を続けています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

品質保証体制

リンテックグループでは国際標準規格であるISO9001*の考え方を基本とした品質保証体制を構築してきました。2015年9月にISO規格が改訂されたことから、2015年版への移行準備を進めています。さらに、新たな拠点での認証取得や拡大・統合認証を継続しながら、関連するサイト間の連携強化にも取り組んでいます。これらの活動を基盤として品質向上に努めています。

* ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

ISO9001 認証取得状況

	2013年度	2014年度	2015年度★
認証取得数	21	20	20

* ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

★マークについては[こちら](#)

Voice 台湾でのCSR講演

お客様からの依頼を受け2016年1月に「働きやすい職場環境づくり」についてプレゼンテーションを実施しました。働きやすい職場環境づくりには、リンテックグループの価値観を全従業員と共有しなければならず、その行動はCSR活動と一致します。お客様の従業員とサプライヤーに対し、リンテックグループのCSRと当社のストレスを和らげる職場環境、従業員間のコミュニケーション促進活動、環境保全と健康促進活動について説明しました。お客様との信頼関係を高め、持続的成長を遂げるため、CSR活動に積極的に取り組んでいきます。



リンテック・アドバンスト・
テクノロジーズ（台湾）社
広報部
呂 筱薇
（ルー・シャオウェイ）

お客様のために

CS(お客様満足)向上のために

製品の情報開示

お客様に安心して製品を使っていただけるように、リンテックグループではさまざまな方法で製品情報の開示を行っています。安全データシート（SDS）の発行や化学物質調査の回答もそれらの一環です。幅広い分野で使用されている当社製品に求められる情報は多岐にわたり、それらを分かりやすい情報として提供することがCS向上につながると考えています。例えば粘着製品では、品種ごとに特徴や構成、物性データなどを記載した技術資料を準備しています。これからも喜んでいただけるリンテック製品を目指して、さまざまな取り組みを進めていきます。

品質教育

リンテックグループではお客様に満足いただける高品質な“ものづくり”を目指し、その一環として、ISO9001(品質マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、ISO22301(事業継続マネジメントシステム)の認証を取得しています。全従業員を対象とした勉強会やe-ラーニングなどを通じた社内教育を継続しています。

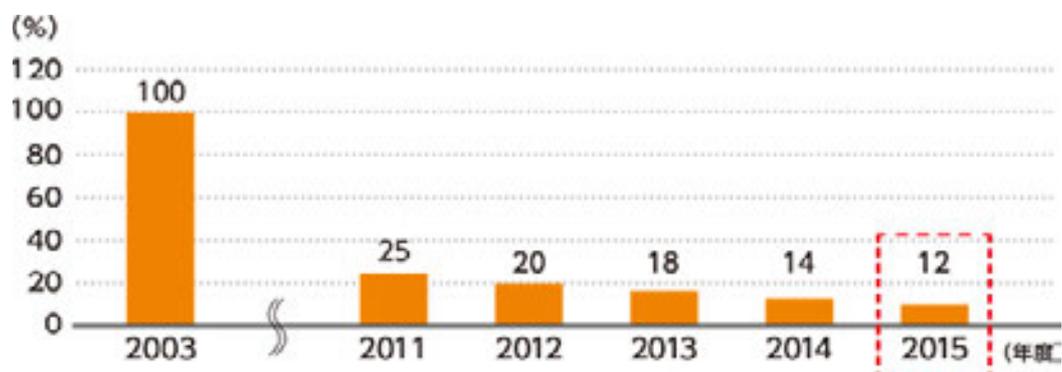
品質教育講座受講者数 延べ

 1,951人

品質事故の予防

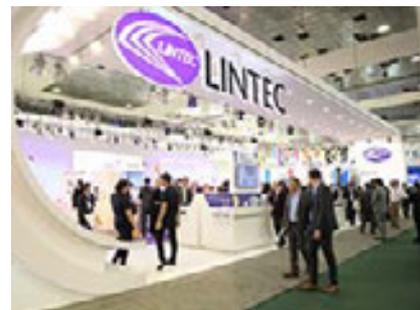
お客様の信頼を失いかねない品質事故にはスピーディな対応が必要です。迅速な情報収集と原因分析、および再発防止を目的としたクレーム管理システムを構築・運用しています。国内対応に加えて2015年4月からは、海外拠点への展開も始め、国内外の連携体制を構築し、品質事故の撲滅に努めています。

品質事故件数比率（2003年度の件数を100%とした比率）



国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2015年度は、計24回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



LABELEXPO EUROPE 2015に出展

2015年度に出展した主な展示会

国内	海外
<ul style="list-style-type: none">■ ファベックス 2015■ SIGN EXPO 2015■ サイン&ディスプレイショウ2015■ エコプロダクツ2015■ 第17回半導体パッケージング技術展■ 第15回国際ナノテクノロジー総合展	<ul style="list-style-type: none">■ Display Week 2015 (アメリカ・サンディエゴ)■ Philippines Semiconductor and Electronics Convention and Exhibition 2015 (フィリピン・バサイ)■ SEMICON West 2015 (アメリカ・サンフランシスコ)■ All China Leather Exhibition 2015 (中国・上海)■ SEMICON Taiwan 2015 (台湾・台北)■ NEPCON Vietnam 2015■ LABELEXPO EUROPE 2015 (ベルギー・ブリュッセル)■ China (Shenzhen) International Touchscreen Exhibition 2015(中国・深圳)■ LABELEXPO ASIA 2015 (中国・上海)■ SEMICON China 2015 (中国・上海)

洋紙事業説明会の開催（熊谷工場）

リンテックでは、マスコミとの交流活動にも取り組んでいます。2016年3月には紙・パルプ業界の新聞・雑誌社など11社12人の記者を熊谷工場に招き、洋紙事業の最新動向についての情報提供や、生産現場の見学などを行いました。記者の方々は、マシン音が響く工棟内で担当者の説明に関心をもって聞いていらっしゃいました。

今後も、記事を通してより多くのお客様にリンテックの事業や製品についてご理解いただけるようマスコミとの交流を積極的に行っていきます。

お取引先との協働

リンテックグループでは、信頼関係の下お取引先と連携しながら相互の発展を目指して公正で透明性の高い取引に努めています。

公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針としています。お取引先の選定にあたっては適正な評価を行い関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。また、お取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係の構築に努めています。

CSR調達

リンテックではCSRの精神に基づいた「リンテック原材料調達基本方針」、「リンテックグリーン調達方針」、「リンテック木材パルプ調達方針」に沿った調達活動を実施しています。お取引先にはこれらの方針を理解していただくとともに、あらゆる観点からCSRの徹底をお願いしています。2015年度もお取引先アンケートを実施し、CSRに関する項目では人権尊重や児童労働の禁止、健康な労働環境などについて確認しています。原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位78社★に依頼し、全てのお取引先から回答を頂きました。今後もお取引先との連携に努めていきます。

お取引先数

 2,692社

今後もアンケートによる現状把握と結果を活用し、調達活動を行っていきます。

★マークについては[こちら](#)

グリーン調達

リンテックグループでは環境負荷低減を目指して原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。製品含有化学物質管理として、2015年度はREACH規則*の含有調査で、原材料を対象に約16,000品種の調査活動を実施しました。また、お取引先にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底をお願いしています。

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

-  [リンテックグリーン調達方針](#)
-  [リンテック木材パルプ調達方針](#)
-  [リンテック原材料調達基本方針](#)

紛争鉱物*への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識し、原材料における「紛争鉱物」の使用状況を調査し、原材料としてそれらを使用していないことを確認しています。今後も「紛争鉱物」を不使用とする調達管理を行っていきます。

* 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物は、タンタル、錫、タングステン、金。

Voice お取引先と協働しQCD改善活動を強化

リンテックでは主要な原材料のお取引先に対して「自己監査チェックシート」を通じて継続的なコミュニケーションを実施しています。「品質」「化学物質管理」「経営・サービス」「CSR」の4つのチェックシートに回答いただくことで購買プロセスを定期的に見直し、お客様ニーズの変化に対応していくためのパートナーシップの維持、強化に努めています。今後もお取引先との協働関係を基に、QCD*の改善活動を一層強化していきます。

* QCD：Quality（品質）、Cost（価格）、Delivery（納期）のこと。リンテックではお客様の満足を最優先に、お取引先との協働体制の下、3つのさらなる向上を目指す。



本社 コスト改革推進室 調達部
調達業務課 課長代理
中林 正仁

お取引先との協働

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給元であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2014年度より、全ての製品を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しています。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*発生時に対応する組織や手順の整備について、対応の協力要請を行っています。

* インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

従業員とともに(人権・雇用)

リンテックグループでは、全従業員が明るく意欲的に業務を行えるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

人権と多様性の尊重

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持つよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ）を尊重*しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

* 多様性（ダイバーシティ）の尊重：人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

雇用状況★



★マークについては[こちら](#)

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、2016年度の新入社員46人に対し「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行うなど、人権教育も実施しています。



新入社員研修での講義

Voice 女性活躍促進検討委員会に参加

ダイバーシティマネジメント研修ではダイバーシティとは何か広く学ぶことができました。女性自らも成長していかなくてはならず、男性もコミュニケーションがうまくならなくてはいけないと感じました。女性活躍促進検討委員会に参加後、「サポート制度活用ブック」や、産休・育休復帰支援面談シートを活用してもらうようにアドバイスできる機会もあり、研修が役立っています。



飯田橋オフィス 印刷・情報材
事業部門 業務部 課長代理
森下 加代子

従業員とともに(人権・雇用)

人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

|| 障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2015年度の通期雇用率は1.94%となり、法定雇用率である2.0%を下回りました。

なお、2015年4月1日より人事部内に「業務支援室」を新設、各部署から依頼された業務を行える環境を整え、障がい者を新たに雇用して、各部署の業務支援を行う取り組みをスタートしました。

障がい者雇用率

	2013年度	2014年度	2015年度
雇用人数(人)	46	45	50
通期雇用率(%)	1.79	1.77	1.94



アクセシビリティ*が向上した本社新2号館

* アクセシビリティ：高齢者・障がい者を含む誰もが、さまざまな製品・建物・サービスなどを支障なく利用できること。

|| ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。

ジョブリターン制度利用者数

	2013年度	2014年度	2015年度
雇用人数(人)	0	0	0

高年齢者雇用

リンテックでは高年齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2015年度は定年退職者32人のうち20人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。



現場で技術指導する再雇用の社員(左)

高齢者雇用者数	(人)		
	2013年度	2014年度	2015年度
定年退職者数	23	37	32
再雇用者数 (割合)	15(65%)	22(59%)	20(63%)

労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的に関催する協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。

リンテックフォーレストの状況

	2013年度	2014年度	2015年度
フォーレスト 会員数(人)	2,086	2,055	2,033
平均年齢(歳)	38.3	38.5	38.8
平均勤続年数	16年6か月	16年8か月	16年11か月

※ 各年度末現在

従業員とともに(人権・雇用)

ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気やけがをした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地域貢献活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入しています。2016年4月より、介護休業の期間を93日から1年に拡大。勤務時間の短縮措置についても、育児では対象を小学校未就学児までから小学校3年までに、介護では2年（730日）から3年(1,095日)にするなどの取り組みを実施しています。

また、2016年4月1日から、女性活躍推進法に基づいた行動計画を策定し、活動を推進しています。今後も安心して仕事に取り組める体制づくりに努めます。

女性活躍推進法に基づいた行動計画

目標①	新卒採用（大卒・院卒）における女性採用比率の平均を全体の30%以上にする
取り組み内容	<p>平成28年（2016年）4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ “女子学生の採用推進”に向けて、引き続き社内周知を図る ■ “仕事・職場づくり”“仕事のやり方の見直し・工夫”の環境整備を行う ■ 採用選考時において、各職種に女性リクルーターを配置する
目標②	女性の監督職（係長）を10%以上にする
取り組み内容	<p>平成28年（2016年）9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理職を対象とした「ダイバーシティ・マネジメント研修」を継続し、多様な人材が各職場で能力を最大限に発揮していける職場環境づくりについての意識改革に向けた啓蒙活動を行う <p>平成28年（2016年）11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 女性従業員を対象とした「女性活躍推進・キャリアアップ研修」を継続し女性活躍推進の取り組みや自身のキャリアの形成等、これからの働き方について女性自身の意識改革を行う <p>平成29年（2017年）2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア育成に向けた研修の見直しを検討

計画期間：平成28年（2016年）4月1日から平成31年（2019年）3月31日までの3年間

社員支援の制度

介護支援

- 介護休業制度(通算93日間以内)

- 介護休暇制度(10日/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：要介護状態にある対象家族の介護そのほかの世話をを行う社員

子育て支援

- 出産休暇制度(通算14週間)

対象：出産する社員

- 育児休業制度(対象期間内で社員が申し出た期間)

対象：子が満1歳に達する日(事情により1歳6か月に達する日)までの間で、申し出をした社員

- 子の看護休暇制度(10日/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：小学校就学前の子の看護または子に予防接種・健康診断を受けさせるために申し出をした社員

- 時短・時差勤務制度

対象：小学校就学前の子を養育し、申し出をした社員

ボランティア支援

- 社会貢献休暇制度(5日間/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：災害時の救援活動や地元の消防活動、幼稚園・小・中学校の活動、地域の町おこし活動などに参加する社員

各制度の利用者数

制度	2013年度	2014年度	2015年度★
介護休業制度(人)	1	1	0
介護休暇制度(人)	3	1	1
保存休暇制度(人)	61	65	61
出産休暇制度(人)	16	14	13
育児休業制度(人)	26	25	20
子の看護休暇制度(人)	11	10	9
時短・時差勤務制度(人)	21	28	27
社会貢献休暇制度(人)	26(延べ50日)	26(延べ47日)	22(延べ49日)
有給休暇取得率(%)	50.09	51.12	61.11

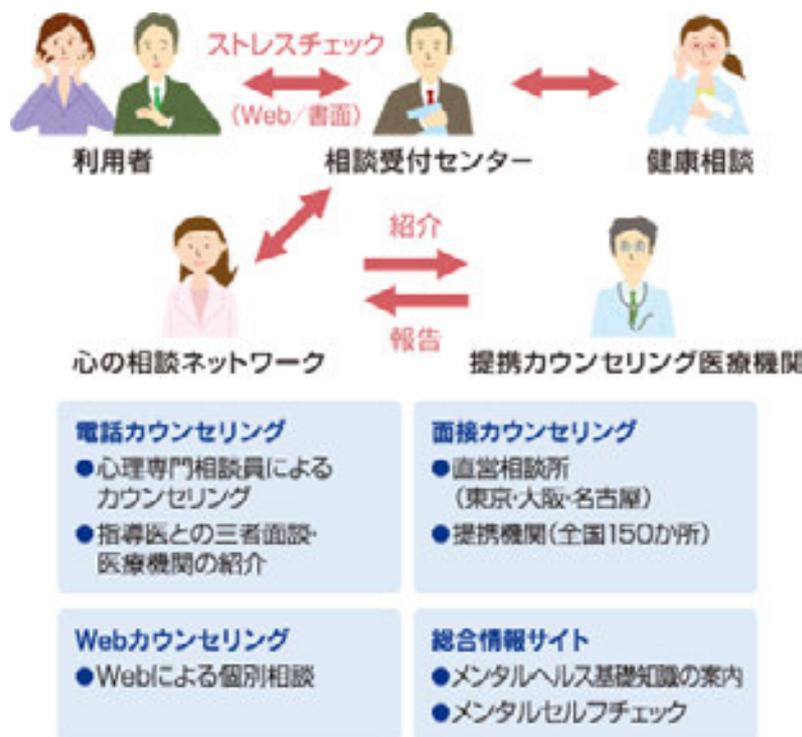
★マークについては[こちら](#)

|| メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2015年度はグループ全体で3,390人を対象に実施し、受診率は93.27%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律・家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

* 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

予防型EAPシステムの概要



|| 長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率良く計画的に進めるための仕組みを導入しています。こまかな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。また、「心の健康診断」を年1回受診することにより、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。

Voice 50年の歴史ある本社華道部

本社華道部（草月流）は活動50年以上続く歴史のある部活動です。いけばなの基本のお稽古は草月流の教科書に沿って勉強しますが、上級者になると自由に生けることができます。月に2回お稽古があり、その作品を受付カウンターと喫煙所に展示しています。来訪者や従業員の皆さんにお花を通じて季節を感じていただき、少しでも癒しになればと思っています。



本社 総務・法務部
秘書室 主任
後藤 正子

従業員とともに(人材育成)

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

全社階層別研修

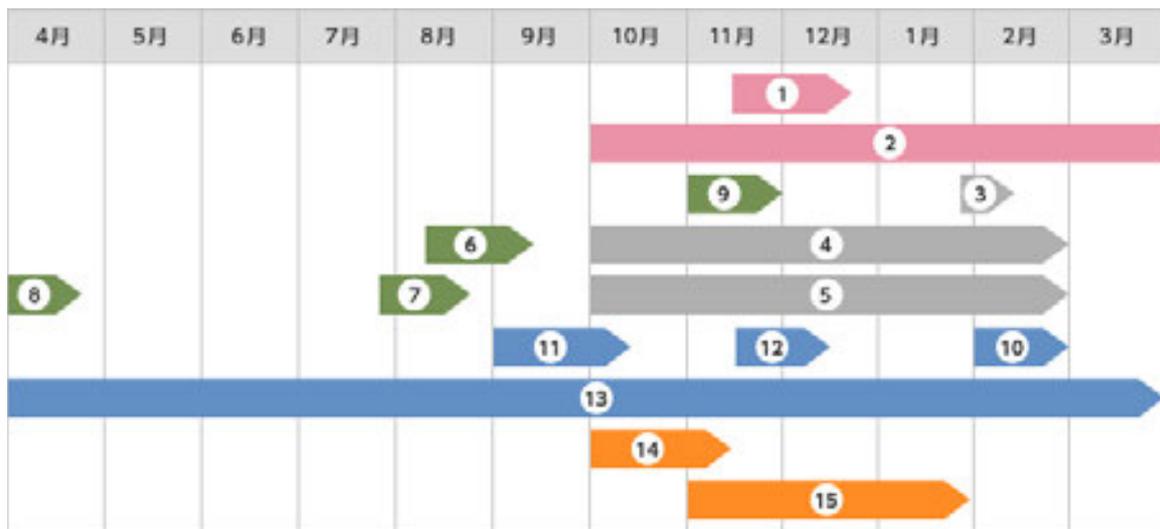
リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修は、社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援しています。

全社階層別研修参加者 延べ★

507人

★マークについては [こちら](#)

2015年度 階層別研修



2015年度 研修内容と受講者数

研修内容	受講者数(人) (対象者)
①新任管理職研修(集合研修) 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	31 (新任管理職)
②新任管理職研修(通信研修) 管理職として必要な経営学分野の基本知識、マネジメントの知識、スキルを習得する。	31 (新任管理職)

③新任係長研修(集合研修) 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。	38 (新任係長)
④5等級昇格者研修(通信研修) グループリーダーとしての職場の問題解決、部下の指導・育成、生き生きとした職場づくりなどについて体系的に習得する。	93 (5等級昇格者)
⑤4等級昇格者研修(通信研修) 総合的なビジネススキルの習得を目標に、科目選択で習得する。	55 (4等級昇格者)
⑥3年目フォロー研修(集合研修) 2年目を振り返り、現状をグループで討議することにより、今後の目標について明確にする。	33 (新卒3年目)
⑦2年目フォロー研修(集合研修) 1年間を振り返り自分の成長を確認し、これからの取り組みを自己演習とグループ学習を通じて明確にする。	34 (新卒2年目)
⑧新入社員研修(集合研修) ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論などを理解する。	31 (新入社員)
⑨若手営業職研修(集合研修) 営業活動における能力の向上を目的に、対人関係能力の向上、顧客志向の醸成、自己への気付きなどを習得する。	16 (入社4年目・5年目の営業職)
⑩ブラザー・シスター研修(集合研修) 新入社員や若手社員の指導をする先輩社員の育成を目的に、職場指導の重要性を認識し、指導に当たり必要な知識の習得および新入社員や若手社員への動機づけの手法を習得する。	28 (新入社員や若手社員を指導する先輩社員)
⑪女性活躍促進・ダイバーシティマネジメント研修(集合研修) 女性活躍・ダイバーシティマネジメントの基本的な考え方、管理職としての役割および自社の取り組みを理解し、女性活躍に向けた気付きを得る。	30 (管理職)
⑫女性が活躍するための意識付け・キャリアアップ研修 女性活躍促進の取り組みを正しく理解し、当事者意識を持つとともに、働きやすい職場づくりや自分自身のこれからの働き方について考える。	29 (女性社員)
⑬語学研修(自薦・本部推薦) グローバル化が進む中、海外赴任候補者のすそを広げることと、業務上必要と思われる語学での遂行能力を上げることを目的とする。	12 (自薦のうえ選考)
⑭内定者研修(集合研修) ⑮内定者フォロー研修(集合/通信研修) 入社までの時間でやっておくべきこと、社会人となるに当たっての心構えを習得する。	46 (内定者)

従業員とともに(人材育成)

個別教育プログラム

|| CSR勉強会/情報セキュリティー教育

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR勉強会を適時実施しています。2015年度は伊奈テクノロジーセンターとリンテックカスタマーサービス(株)(参加者:160人)において、コンプライアンスと情報セキュリティー教育を併せて実施しました。また、海外グループ会社でもCSR勉強会を開催し、延べ20人が参加しました。

|| 環境教育

リンテックと東京リンテック加工(株)では、ISO14001の自覚教育の一部としてe-ラーニングを実施しています。2015年度は「環境マネジメントシステム」と「省エネルギー」のテーマで実施し、受講者の理解を深めました。さらに、ISO14001の自覚教育、内部監査員養成講習、生物多様性の保全に関する出前講座の受講などを行い、理解と意識の向上を目指しています。イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」では、環境関連法令の改正、ISO14001の活動報告などを発信しています。

2015年度 環境教育延べ受講者数

対象	内容	延べ受講者数 (人)
本社	ISO14001自覚教育(新入社員、異動者)、ISO部門内自覚教育	365
吾妻工場	ISO14001自覚教育(階層教育、方針管理の周知、廃棄物分別、省エネ活動、化学物質管理など)、新入社員教育(高卒新人の研修(EMSの概要))、緊急事態対応訓練(緊急連絡網訓練、薬品漏えい時の対応訓練、工場全体の防災訓練(年2回)、外部講習会参加(ISO14001審査員補、電力事業所見学、他)	951
熊谷工場 (リンテックサービス)	ISO14001自覚教育、新入社員教育、化学物質管理教育、森林認証教育、緊急事態対応訓練	486
研究所	ISO14001自覚教育、廃棄物関連教育(新入社員)、生物多様性(出前講座)、化学物質管理教育(新入社員)	850
東京リンテック加工	ISO14001自覚教育、新入社員、配転者教育、生物多様性(出前講座、会社見学)、化学物質管理教育、省エネ、廃棄物分別	326
伊奈テクノロジーセンター	ISO14001自覚教育、生物多様性(自然観察)	162
千葉工場	ISO14001自覚教育、内部監査員教育、特定業務従事者教育、環境設備教育、環境関連法教育、生物多様性セミナー、新入社員・内部配転者	395
龍野工場	ISO14001自覚教育(階層教育、方針管理の周知、廃棄物分別、省エネ活動、化学物質管理など)、新入社員教育(新入社員・転	423

	入者・新規EMS責任者(EMSの概要)、特定業務職場教育・訓練・社内教育(緊急連絡網訓練、薬品漏えい時の対応訓練)、外部講習会参加(ISO14001審査員補、生物多様性、資格他)	
新宮事業所	ISO14001自覚教育、緊急事態対応訓練、生物多様性(出前講座、団体活動)	551
新居浜加工所	ISO14001自覚教育、生物多様性(出前講座、社外勉強会参加)、特定業務教育(危険物・廃棄物取扱従事者)、内部監査員力量確認、相互監査員リーダー研修、社外講習(有機溶剤、乾燥設備作業主任者)	99
三島工場 (協力会社含む)	ISO14001自覚教育(新入社員、異動者)、ISO14001内部監査員自覚教育、生物多様性(県総合化学博物館学習会)	509
小松島工場	ISO14001自覚教育(化学物質教育を含む)、生物多様性(清掃活動、緑化活動)	296

|| リンテック環境・安全インフォメーション

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001(活動実績/サイト事務局紹介)、化学物質管理関連(REACH規則*や規制情報など)、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2015年度は12回発信しており、今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。



リンテック環境・安全インフォメーション

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

技術に親しむ会

研究開発部門、生産部門および営業部門との技術交流を目的に、2015年11月「新製品を生む先端技術」をテーマに、第66回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者67人を含めた総勢約200人が参加しました。研究開発担当者から、最新の環境および効率化への製品開発、生産技術の取り組みが発表され、活発な意見交換とともに技術情報の共有を図りました。



技術に親しむ会

従業員とともに(人材育成)

自発的教育制度

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	受講者数(人)	修了率(%)
2013	254	59
2014	200	64
2015	243	65

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦のうえ選定会議により決定されます。2015年度は12人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100～150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

従業員とのコミュニケーション

従業員コミュニケーション

リンテック・タイランド社では、2015年12月にスポーツデイを開催しました。全従業員を4チームに分け、サッカー、セバタクロー、バドミントン、フラフープ、リレーなど10種目の競技を対抗戦で実施しました。各競技は接戦で大変盛り上がり、他部署との交流もより一層深まる意義のあるイベントとなりました。参加者からは、「同じ目標を目指してがんばる楽しさを実感した」「仲間との信頼関係も増し、仕事でのコミュニケーションもスムーズになりました」などのコメントがありました。



従業員の意欲向上につながったスポーツデイ

|| コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語（簡体字・繁体字）版でそれぞれ年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配布しています。また、米国・マディコ社と台湾・リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ（台湾）社でも独自の社内報をPDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」



マディコ社「INSIDE THE FILM」



リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ（台湾）社「LATT WAY」



コミュニケーションマガジン「LINTEC」英語版

|| CSRコミュニケーション

リンテックでは新入社員研修で、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの上野明子事務次長に「国連グローバル・コンパクトとCSR」について講義をしていただきました。また、CSR勉強会を国内拠点と国内外グループ会社で開催し、延べ180人が参加しました。



新入社員研修での講義



CSRレポートは日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字、簡体字）、マレーシア語、インドネシア語、タイ語の7言語で発行

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

従業員とともに(安全防災)

リンテックグループで働く人々が安全な環境で安心して働けるように、さまざまな活動を行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）*に準拠して継続運用しています。全社的な活動として安全相互監査や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場での活動として年間安全衛生計画を策定し、安全活動のPDCAサイクルを回しています。また、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーによる安全検討委員会では、全社的な安全活動について検討しています。今後も無事故・無災害に向けて活動を推進していきます。

* OSHMS:Occupational Safety and Health Management System(労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

- ▶ リンテック労働安全衛生方針
- ▶ リンテック労働安全衛生マニュアルの概要
- ▶ 龍野工場 全国危険物安全協会理事長表彰を受賞

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。2015年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行いました。また、全事業所や国内・海外グループ会社および役員へ災害速報、災害分析報告書および安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- 安全教育
- 訓練計画
- 点検・測定
- 作業環境測定
- 健康診断
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

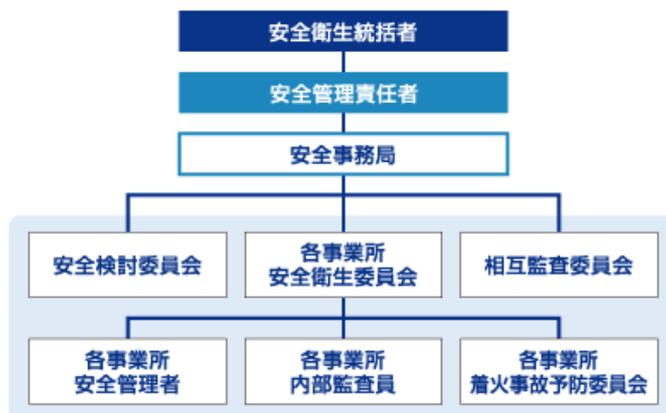
安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会と協議しています。2015年度は災害速報や委員会議事録の配信を、日本語版と英語版で継続しておりグループ全体での安全管理を推進しています。

職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画の実施 ■ 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康や安全運転、防災活動などについて協議

リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図(本社・営業部門を除く)



休業災害

リンテックグループでは、2015年度の休業を伴う労働災害（休業災害）は5件発生し、休業日数は累計134日でした。2013年度から発生件数は減少傾向でしたが、2015年度は増加となりました。災害の内容は、以前から発生しているものと類似災害が3件あり、その他の2件については、慣れた作業中の油断が原因と考えられます。2016年度は、管理・監督者への教育を通じてレベルアップを図り、全員の意識向上を目指していきます。

(海外グループ会社を除く)

休業災害の発生状況

年度	2013年度	2014年度	2015年度
休業災害発生件数(件)	4	2	5
休業日数(日)	245	81	134
発生場所	リンテック、協力会社	リンテック	協力会社

|| 三島工場無災害200万時間達成

三島工場では、約2年半の間無災害を継続し、2016年2月13日に完全無災害時間200万時間を突破しました。

当工場では2014年3月からMIP*1活動と称した5S*2を基本とした現場改善活動に取り組んできており、職場内の美化および、作業性の向上、効率アップを目指しています。今後もMIP活動を強化推進し、きれいで安全な職場づくりを目指していきます。

★マークについては[こちら](#)

*1 MIP：Mishima Innovation Projectの略。

*2 5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけの頭文字の5つの「S」を取ったスローガン。



三島工場安全衛生委員会のメンバー

2015年度 連続完全無災害達成時間の状況 (2015年4月1日～2016年3月31日)

達成年月	事業所	達成時間 (時間)	
2015年	4月21日	新宮事業所	175万
	5月22日	伊奈テクノロジーセンター	50万
	7月9日	三島工場	150万
	11月25日	吾妻工場	100万
	12月11日	新宮事業所（新居浜含）	200万
2016年	2月13日	三島工場	200万
	3月31日	千葉工場	1年間無災害
	3月31日	小松島工場	1年間無災害
	3月31日	新宮事業所（新居浜含）	1年間無災害
	3月31日	吾妻工場	1年間無災害
	3月31日	三島工場	1年間無災害

|| 定期安全協議会の開催(熊谷工場)

熊谷工場では構内工事における工事協力会社の災害防止を目的に、年3回の定期安全協議会を開催しています。工事都度での安全に関する事前打ち合わせとともに、これらを補うため4、7、12月に社内外から185人ほどの参加者と(1)安全作業ルールの徹底、(2)他社災害情報の共有、(3)現場の不安全情報など、安全に関する幅広い意見交換を行う場を設け、ルールや管理形態の周知と見直し、現場の改善などにつなげる活動を行っています。参加くださった全ての会社には安全誓約書を提出していただき、構内作業における安全作業の徹底をお願いしています。



熊谷工場での安全協議会

2015年度 工事に関する安全協議会

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年3回	安全教育	176
小松島工場	年4回		24
三島工場・土居加工工場	年2回		77
新宮事業所	年2回		81
計			358

|| 各生産拠点でトップパトロールを実施

国内外の生産拠点・研究所での“安全作業”を徹底するべく、西尾社長によるトップパトロールが行われました。生産現場で作業する多くの従業員に声を掛けながら、安全最優先の励行や整理整頓などの5S実施状況を視察しました。各拠点ではトップパトロールでの指摘に対する改善策を施すとともに、働きやすい作業環境を整備しています。



伊奈テクノロジーセンターでの視察

Voice リンテック安全4原則を唱和し2年連続無災害

当社では5Sの徹底のため「リンテック安全4原則*」を毎朝全従業員で唱和しています。私自身は安全管理者として毎日安全パトロールを行っています。また公的機関の安全講習を受けた従業員を、毎年交代で安全衛生委員に据え工場全体の安全意識向上に取り組んでいます。こうした取り組みにより無災害を継続し地元労働局から2年連続で安全表彰を受賞しました。次は無災害100万時間を達成したいと思います。

* リンテック安全4原則：1.指差呼称する 2.回転体に手を出さない 3.共同作業は合図する 4.異常時は機械を止める。



リンテック・タイランド社
(タイ) 安全課 担当係長
Zeeroh Madsa-i
(シーロー・マッサイ)

従業員とともに(安全防災)

BCMSにおける防災対策

国際標準規格のISO22301*に基づいた全社BCMS活動における防災・減災対策では、人命最優先としたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点において災害別の危険を特定し、分析・評価を実施しています。防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案し実行することを全社BCMS活動のルールに定めています。これらの災害対策は演習を行うことで、対策の妥当性・効果性を高めています。

* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

防災訓練

リンテックでは、全社BCMS活動として各拠点でさまざまな演習を実施するとともに、防災用品の準備や衛星電話の導入による通信手段の複数化など、リスクの低減に努めています。2015年12月1日には「全国的な震度6弱の地震発生」を想定し、国内26拠点★と協力会社から約3,700人★が参加し、安否確認演習を実施しました。今後も継続的に演習を実施する予定です。

★マークについては[こちら](#)

▶ 龍野工場の消火栓チームが消防出初式で消火活動を披露



本社の災害用備蓄品

2015年度 防災訓練

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年4回	避難訓練・ 消火訓練等	510
小松島工場	年8回		342
三島工場・土居加工工場	年3回		220
東京リンテック加工(株)	年2回		210
吾妻工場	年2回		483
研究所	年2回		409
新居浜加工所	年6回		47
伊奈テクノロジーセンター	年3回		235
龍野工場	年5回		732
千葉工場	年17回		300
新宮事業所	年12回		693
計			4,181

Voice BCMSに基づく速やかな対応

リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社のBCMSは2015年2月から活動をスタートし、約1年間の準備期間後、2016年2月2日の拡大審査を経て登録されました。また、2016年2月6日に発生した台湾南部地震では、安否確認やLSP（Lintec Standard Package）*での被害状況報告も速やかに実施することができ、活動の成果を実感する機会になりました。今後も全社BCMS活動に取り組んでいきます。

* LSP：国内外グループ会社で利用可能な企業内ネットワーク。



リンテック・スペシャリ
ティー・フィルムズ（台湾）
社 総務課工安室 副係長
鄭 文杰
（ズン・ウンジェ）

地域社会とともに

リンテックグループは、地域や社会の一部であることを認識し、共生を図りながら、社会に貢献するためのさまざまな取り組みを行っています。

リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。このページでは、その一部をピックアップして紹介します。

■ リンテックグループ全体での活動

東日本大震災復興支援／植林ボランティア／団体献血／美化清掃活動／ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収／日本赤十字への寄附、赤い羽根募金、緑の羽根募金

■ 次世代育成

第9回夏休み紙工作コンテスト／くらしか協賛

■ スポーツ振興

埼玉県民球団「武蔵ヒートベアーズ」協賛

■ 地域安全活動

暴走連街頭キャンペーン／AED*の講習会／小学校通学マップにて「子ども110番の家」として登録

■ 障がい者支援

ふれあいコンサート／障害者福祉施設（蕨市、文京区、たつの市）によるパン販売／四国中央市障害児教育支援チャリティーゴルフ大会への協賛／板橋区障がい者スポーツ大会へ製品提供／東京ドーム野球観戦ご招待／教育機関へのベルマーク運動の参加および障がい者支援活動

■ 地域の祭事などへの協賛・支援

東吾妻ふるさと祭／原町祇園祭／宇佐八幡宮／川戸神社／浅間神社春季・秋季大祭／金井一宮神社春季・秋季大祭／熊谷うちわ祭／熊谷花火大会／3地区子供会六條八幡神社神輿／六条八幡神社秋祭／たつの市新宮町納涼ふれあいまつり&花火大会／たつの市神岡町小那田自治会納涼祭／たつの市神岡町神岡スポーツ振興会ふるさとコンペ／土居町釣り大会／龍野神社／小宅神社／疎水感謝祭／湖水まつり／三島町民運動会／天神祭花火大会／水波神社崇敬会／四国中央市土居夏まつり花火大会／三島太鼓祭り／土居太鼓祭り／榎神社奉納金／大塚神社奉納金／春日神社奉納金／興願寺／朝日文化会館年忘れ演芸大会／そうさチューリップ祭り／伊奈町B級グルメどん井食べな祭／わらび機まつり／中仙道蕨宿宿場まつり／阿波踊り／板橋花火大会／板橋本町上町会祭礼奉納金

■ 製品の寄贈

保育園・小学校など12校へ紙製品を寄付

▶ アムステルダム日本人幼稚園・学校に「ニューカラーRシリーズ」を贈呈

* AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動を行っています。2015年度も前年度に引き続き、板橋区（リンテック本社所在地）と「連携協力協定」を締結している岩手県大船渡市への支援金を募り、従業員からの寄付金に、会社とリンテックフォーレスト*から、それぞれ同額を加えたマッチングギフト形式で寄付しました。寄付金は、中学校吹奏楽部の楽器購入費用として利用されています。また本社では福島物産展を開催し、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続していきます。

* リンテックフォーレスト：リンテックの労働組合。



大船渡市中学校の生徒が飯田橋オフィス
ショールームを見学



福島物産展のようす

岩手県大船渡市に支援金

東日本大震災の復興支援活動としてリンテックグループ従業員から集めた支援金を岩手県大船渡市に寄付しています。この支援金は、大船渡市教育委員会を通じて、中学校の運動環境改善のため校庭のグラウンド整備などに活用されました。この支援に対し大船渡中学校野球部からお礼状が届きました。その中で「震災後からグラウンドがなかった私たちには土のグラウンドはすごくうれしいものです。この土の上で実力をつけられるよう頑張ります」など、多くの感謝の言葉を頂きました。今後も、被災地の方に喜ばれる復興支援活動を継続していきます。



|| 団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施していきます。

▶ 吾妻工場 献血活動において「金色有功章」を受章



本社での団体献血

2015年度 献血実績

事業所名	実施回数(回)	参加者数(人)
三島工場	2	40
小松島工場	2	21
龍野工場・新宮事業所	2	52
研究所	2	74
千葉工場	2	35
東京リンテック加工	2	12
熊谷工場	2	52
吾妻工場	2	95
伊奈テクノロジーセンター	2	49
大阪支店	2	23
飯田橋オフィス	1	50
本社	2	73
計	23	576

|| ふれあいコンサート

第5回「リンテックふれあいコンサート」を2015年10月に開催しました。この催しには、板橋区在住の障がい者の方とその介助者、近隣住民の方々などをご招待して、リンテックグループ従業員、その家族を含め、約700人が参加しました。公演では、板橋区ダウン症児親の会「ほほえみの会」の子供たちによるハンドベル演奏、今回初参加となった板橋区立高島第三中学校の合唱団「くま」による合唱や、ジャズバンドによる演奏を行いました。今後も地域の方々と触れ合える場を大切にしていきます。



「リンテックふれあいコンサート」ボランティアスタッフ

平成28年（2016年）熊本地震の被災地に向けた支援

このたびの平成28年（2016年）熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。リンテックグループは、被災された皆様への支援および被災地の復興にお役立ていただくため、日本赤十字社を通じて義援金を寄贈させていただくとともに国内外のグループ各社において従業員からの募金活動を行い別途寄付させていただきました。

被災地の、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地域社会とともに

社会貢献活動

美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2015年度は国内全事業所で延べ2,838人が参加しました。近隣企業や地域住民の皆様と協力しながら、社会貢献活動の一環として地域環境を美しく保つ清掃活動に積極的に取り組んでいます。

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

 **2,838人**



荒川河川敷の清掃（熊谷工場）



横須海岸清掃（小松島工場）

2015年度 美化・清掃活動

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
吾妻工場	月2回	工場近隣ゴミ拾い	96
熊谷工場	2015年6月10日	荒川土手清掃	118
	2015年11月8日	荒川クリーンエイド	26
研究所	月1回	研究所周辺公道ゴミ拾い	400
東京リンテック加工	年24回	敷地内外清掃	504
	2015年5月11日	駐車場、工場外回り草刈り	15
千葉工場	2015年5月27日	みどり平工業団地ゴミゼロ運動	5
	2015年7月17日	吉崎浜下刈作業	2
	2015年7月18日	蓮沼海岸ゴミ拾い	55

龍野工場	月1回	工場周辺清掃	760
	2015年5月12日	工場周辺溝清掃	18
新宮事業所	年24回	事業場周辺清掃	544
	2015年5月16日	工場周辺溝清掃(龍野事務所)	18
三島工場	2015年5月16日	土居工場周辺草刈	16
	2015年5月20日	三島工場周辺溝掃除	5
	2015年7月5日	寒川豊岡海浜公園ビーチ清掃	4
	2015年10月5日	三島工場周辺公道ゴミ拾い	50
小松島工場	2015年5月23日	豊かな海クリーンアップ作戦	48
	2015年5月29日	工場前道路清掃	37
	2015年6月13日	リフレッシュ瀬戸内(海浜清掃活動)	46
	2015年9月13日	協働の森へ行こう(植林活動)佐那河内	5
	2015年10月5日	工場前道路清掃	42
	2015年11月21日	森へ行こう(植林活動)那賀	8
伊奈テクノロジーセンター	2015年5月18日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	10
	2015年10月14日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	6
計			2,838

植樹活動

千葉工場では、東日本大震災の発生による津波被害を受けた千葉県九十九里陸の海岸保安林を再生するための活動「緑化推進委員会(緑の募金)の森づくり 2015下刈」に参加しました。2013年4月と2014年3月に植栽を行った海岸保安林の苗木の成長を助けるための重要な作業である「下刈り」の作業を行いました。7月17日に行われた「下刈り」には、千葉工場からは2名が参加し、蒸し暑い中、適度な水分補給に気を配りながら苗木の健やかな成長を願って草刈り勤しみました。

- ▶ リンテック・インダストリーズ(サラワク)社がバコ国立公園で植樹
- ▶ ジャワ島沿岸部にマングローブ1,500本を植樹(インドネシア)



吉崎浜下刈り

|| 地域安全活動

龍野工場では、たつの防火協会が主催する、自衛消防競技会に出場しました。この競技会は消火器の部と屋内消火栓の部に分かれ、通報や負傷者確認、初期消火などの正確さやタイムを競い合うものです。13チームが出場した屋内消火栓の部では、出場した大会では3回連続の優勝となりました。これからも防火意識と初期消火技術の向上に努めていきます。



|| 障がい者支援

2015年4月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対埼玉西武ライオンズ」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計118人をご招待しました。本活動は今回で9回目を迎え、観戦後には「ありがとう」「楽しかった」「次も来ます」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。

|| 地域の祭事への協賛

熊谷工場がある熊谷市では、毎年7月20日から22日に「熊谷うちわ祭」が開催されています。「熊谷うちわ祭」は3日間で70万人以上の方が訪れ、関東一の祇園祭と称されるほどにぎやかなお祭りです。熊谷工場では、八坂神社にうちわを奉納する形でお祭りに協賛し、奉納されたうちわは、うちわ祭に来られた見物客の皆さんに配られています。



奉納したうちわ

|| 地域の祭事への参加

小松島工場では、8月12日に徳島県で開催された「阿波踊り」に80人が参加しました。「阿波踊り」は約400年の歴史を持ち、数十人の“連”とよばれる組をつくり、三味線、笛、鉦（かね）、太鼓のリズムに合わせて老若男女が一緒になって踊る日本を代表する夏の祭りです。小松島工場では、毎年工場内で有志を募り“リントック連”として参加し、祭りを盛り上げています。



小松島工場の阿波踊り参加

地域社会とともに

社会貢献活動

|| 「みどりのカーテン」で節電

2015年も暑い熊谷工場では事務所の前にゴーヤで緑のカーテンを設置し、葉の蒸散作用と直射日光を遮ることによる室内温度の低下で、エアコンの節電に効果がありました。



みどりのカーテン

|| 次世代育成

独自技術で新製品を開発するリンテックにとって、次世代の育成は重要なテーマです。リンテックでは、未来を担う世代の育成と子供たちの理科離れ防止のために活動をしている(社)蔵前工業会の蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称：くらりか)の寺子屋式理科教室に協賛しています。「くらりか」は、全国の児童館や地域のコミュニティセンターなどで出前授業を行っており、2015年度は年間514教室で開催し、参加生徒数は累計で16,000人を超えました。そのうち、リンテックからの協賛によって、2015年度は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、静岡県、大阪府、島根県の7地域19教室の工作・実験用教材の購入に使用されました。今後も引き続き、「くらりか」への協賛と協力を通じて、子供たちの科学に対する豊かな感性を醸成していきます。

「くらりか」のウェブサイトでも、リンテックの活動が紹介されています。

▶ 「くらりか」ウェブサイト 

工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2015年度は5事業所に合計709人が見学に訪れました。

(海外グループ会社を除く)

▶ 龍野の魅力発見一バスツアーの参加者が来場



龍野工場での見学受け入れ

2015年度 工場・施設での受け入れ

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
三島工場	2015年7月7日	高知製紙工業会	30
東京リンテック加工	2015年12月3日	蕨市立中央小学校	52
	2015年12月7日	蕨市立中央東小学校	73
	2015年11月24日	蕨市立南小学校	92
	2015年10月7日	蕨市立北小学校	118
	2015年12月4日	蕨市立西小学校	77
	2015年11月26日	蕨市立塚越小学校	50
熊谷工場	2015年9月25日	吉岡小学校	41
	2016年2月5日	熊谷商業高等学校	42
吾妻工場	2015年6月3日	中之条高等学校	45
	2015年7月2日	群馬県産業経済部	9
	2015年11月26日	原町小学校3年生	40
吾妻工場	2,016年2月2日	岩島小学校3年生	12
龍野工場		龍野商工会議所	28
計			709

株主とともに

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR*活動を展開

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行い、海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントでのミーティングに加え、継続的な海外投資家訪問を行っています。また、個人投資家向け会社説明会の実施や当社IRサイトの充実にも努め、幅広い投資家に当社への理解促進を図っています。さらに、株主通信誌「WAVE」を年4回発行しており、定期的に行っている読者アンケートを通じて寄せられた声を誌面の企画やIR活動に生かしています。

* IR：Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な企業情報を、適時、公平、継続して提供する活動のこと。



▶ <http://www.lintec.co.jp/ir/> 



ロンドンでのIRミーティング

コミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーの方々との対話を図っています。

お客様とのコミュニケーション

お客様に対し、製品やサービス、営業活動、説明書やMSDS、お問い合わせ窓口、ウェブや展示会など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。

- ▶ 国内外の展示会に出展

お取引先とのコミュニケーション

お取引先に対し、購買活動や説明会、アンケートなど、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、校正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。

従業員とのコミュニケーション

従業員に対し、事業活動や教育制度、説明会や懇親会、イントラネットや社内報など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、全従業員が社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。

- ▶ コミュニケーションマガジンの発行／CSRコミュニケーション

地域社会とのコミュニケーション

地域社会に対し、工場・施設の見学や地元自治体との意見交換会、社会貢献活動、ウェブサイトや会社案内など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。

- ▶ 工場・施設見学の受け入れ

株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会や決算説明会、IRミーティング、会社説明会などを通じて、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを図っています。また、株主通信やウェブサイトでの情報発信の充実に努めており、当社への理解を深めていただくことで、適正株価の形成と信頼関係の構築を目指しています。

▶ 積極的なIR活動を展開

マスメディアとのコミュニケーション

マスメディア、ひいては社会に対し、取材・原稿執筆依頼への対応、アンケート回答、ウェブサイトやニュースリリースなどさまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、社会へ誠実に情報を開示し、信頼関係の構築を目指します。

|| 取材に対しての受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2015年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約70件でした。

小松島工場

- 日本赤十字社から「献血功労団体」として表彰

吾妻工場

- 吾妻危険物安全協会「優良危険物関係従事者表彰」
- 群馬県献血功労者表彰「銀色有功章授与」

熊谷工場

- 熊谷職警連協議会「優良勤労者表彰」
- 熊谷職警連協議会「防犯功労者表彰」
- 熊谷市防火安全協会「自衛消防隊初期消火訓練指導会参加への功労表彰」
- 熊谷地区労働基準協会「優良従業員表彰」

龍野工場

- 兵庫県トラック協会「チャレンジ100運動」 事務課、設備技術課チーム
- 全国危険物安全大会 兵庫県危険物安全大会理事長表彰受賞
- たつの市自衛消防競技会室内消火栓の部 優勝

本社

- 第14回板橋・練馬・豊島地区安全衛生推進大会において、《池袋労働基準監督署長表彰》事業場賞を受賞

飯田橋オフィス

- 「ラベルインダストリー・グローバルアワード2015」の表彰式でサステナビリティ部門で受賞

環境マネジメント

「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、環境マネジメントシステムを構築・運用し、継続的改善を図り、多角的な取り組みを推進しています。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を定めています。この方針には、品質・環境に関する行動指針に加え、自然災害、パンデミック*の発生などに備えた事業継続に関する行動指針を加え、さまざまな側面から社会的責任を果たす内容となっています。また、環境分野ではCO₂排出量、電力使用量などの中期目標を定めています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

環境分野におけるリンテック中期目標（2014年～2016年）

CO ₂ 排出量	対前年度原単位比で1.6%削減
電力使用量	対前年度原単位比で0.2%削減
廃棄物発生量	前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位比で2%削減

* パンデミック：感染症などが世界的規模で流行すること。

環境マネジメントシステム統合認証

リンテックグループは、本社、海外グループ11社、国内11工場、研究所および東京リンテック加工（株）を合わせた25登録事業所において、ISO14001のグローバル統合認証*を取得しています。また、ISO14001が2004年版から2015年版に改訂になったことを受け、2015年版への移行作業を進めています。今後もグループ一体となって環境保全活動に努めていきます。

* グローバル統合認証：世界中にある複数の会社・事業所を一つの組織体としてまとめて取得する、ISO14001の認証。

内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムに基づいた各サイトの適切な運用および法令・条例の遵守状況を確認するため、サイト内部監査およびサイト相互監査を実施しています。サイト相互監査は、リンテック独自の監査資格を持った「主任監査員」が担当し、2015年度は主任監査員を9人養成し、184人（2016年3月31日現在）となりました。

サイト相互監査担当の主任監査員人数



環境コンプライアンス

全リンテックグループでは数多くの環境関連法令を遵守しています。海外および国内各サイトでは、環境管理部門が各自治体の条例を含めた法令にかかわる改定状況の監視や、サイト内の法令遵守状況を確認しています。法令遵守の確認作業は、環境マネジメントシステムに取り込み、定期的に行っています。なお、2013年度から2015年度までの過去3年間において、重大な違反はありませんでした。

生物多様性保全のための取り組み

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に“生物多様性保全”を掲げ、ISO14001の統合認証を取得した国内外の拠点を中心に、生物多様性保全に向けた活動を進めています。NPO法人が実施する活動への参加や、外部講師を招いた社内勉強会の開催など、今後も積極的に生物多様性保全活動に取り組んでいきます。

- ▶ 熊谷工場がゲンジホタルの生息環境の整備活動に参加



「リンテックエコニュース」で生物多様性の情報を発信



東京リンテック加工（株）で行われた社内勉強会

Voice 内部監査のレベルアップに向けて

ISO14001のグローバル統合認証運用開始から10年以上が経過しました。ISO14001 2015年版への移行を進める中で、当社における環境パフォーマンスへの取り組みはますます重要になってきています。こうした状況下、環境マネジメントシステムの適切な運用を管理するためには、内部監査のレベルアップが必要不可欠です。全社活動の利点を生かしたサイト間の情報共有と水平展開に加え、監査員同士が切磋琢磨してスキルアップしていけるように取り組んでいます。



吾妻工場 設備技術課 環境グループ 係長
里吉 名知夫

環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

* LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、LCAを考慮し、評価した環境配慮製品の開発を進め、2015年度は24件（目標12件）開発しました。また、ISO14021*に準拠した“自己宣言型環境配慮製品”のガイドラインを作成し、運用しています。今後も環境配慮製品の開発に努めていきます。

* ISO14021：「環境ラベルおよび宣言－自己宣言による環境主張（タイプII環境ラベリング）」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

環境配慮製品の開発件数



環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、リサイクル・リユースに貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立ち、お客様に満足していただける製品開発を継続していきます。

環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

化粧品やボトル容器に使用されるラベルは、そのほとんどに強粘着タイプの粘着剤が使用されており、きれいにはがしにくいという課題がありました。これを解決するため、リンテックでは、きれいにはがせるラベル素材の新ブランド「REPOP」シリーズを2012年6月に立ち上げました。ラベル素材に強粘再剥離タイプの新規粘着剤を採用しています。これは使用時には高い粘着性を持ちつつも、きれいにはがすことができ、プラスチック容器のリユースやリサイクルに対応した製品となっています。また、粘着剤には有機溶剤を使用しない水系エマルジョン*型を採用しているため、製造する際の環境負荷物質の低減に貢献しています。

* エマルジョン：乳濁液や乳剤ともいわれる。水と油のような混ざり合わない液体について、一方が粒状になって他の液体の中に分散した状態。



のり残りが少なく、きれいにはがせる粘着剤を採用

|| 反射型液晶ディスプレイ*の輝度向上に貢献「光拡散フィルム」

リンテックは、反射型液晶ディスプレイの光を効率的に拡散させることで、従来よりも表示をさらに明るくする「光拡散フィルム」を開発しました。このことが評価され、2015年5月に一般社団法人映像情報メディア学会より技術振興賞を受賞しました。

* 反射型液晶ディスプレイ: 外光の反射によって表示を行うタイプの液晶ディスプレイ。透過型液晶ディスプレイに比べて、消費電力を1/10に抑えることができる。



光拡散フィルムを採用したデジタル時計
(左)

Voice 「カイナスシリーズ KP5000」がグローバルアワードを受賞

2015年9月にベルギーで開催された世界最大のラベル関連展示会「LABELXPO EUROPE 2015」において、「カイナスシリーズ KP5000」（再生ラベルPET素材）がサステナビリティ部門でラベルインダストリー・グローバルアワードを受賞しました。本賞の受賞は日本企業初となります。本製品は、使用済みペットボトルを原料としたメカニカルリサイクルPET*樹脂を80%以上含有させた基材を使用しており、資源循環の促進や、石油資源の枯渇抑制に貢献することができます。今回の受賞を励みに、今後も持続可能な社会に貢献する製品の開発に努めていきます。

* メカニカルリサイクルPET：回収されたペットボトルを活用し、高品質かつ衛生的な再生PET樹脂を生成するリサイクル手法。



粘着材料研究室
松岡 勇輔

地球温暖化防止

事業活動を継続する上で大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リントックグループ*全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500klを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（略称：省エネルギー法）」に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上改善することが求められています。2015年度は、生産設備の効率運転、空調管理、排熱回収推進、VOC燃焼熱利用の拡大など、省エネルギー活動を推進しました。

* 国内リントックグループ：リントック(株)およびリントック(株)の営業拠点、東京リントック加工(株)、大阪リントック加工(株)、プリンテック(株)、リントックサービス(株)、リントックコマース(株)、(株)レンリ。

省エネルギー推進委員会

国内リントックグループでは、省エネルギー法に対応するため、省エネルギー推進委員の管理下で各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動を推進しています。2015年度は、エネルギー原単位改善を目指し、全社的な省エネルギー対策を展開。千葉工場ではVOC燃焼熱利用の拡大、熊谷工場ではコージェネレーションシステム*の見直しを実施しました。

* コージェネレーションシステム: ガスなどを駆動源とした発電機で電力を生み出しつつ、排熱を利用して給湯や冷暖房に利用するもの。

|| エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2015年度のエネルギー総使用量（原油換算）については、生産量の増加により前年度から0.3%増加しました。エネルギー原単位は3.0%改善し、0.3189kl/tになりました。また、2015年度のCO₂排出量は200千tとなり、目標排出量203千t以下を達成しました。

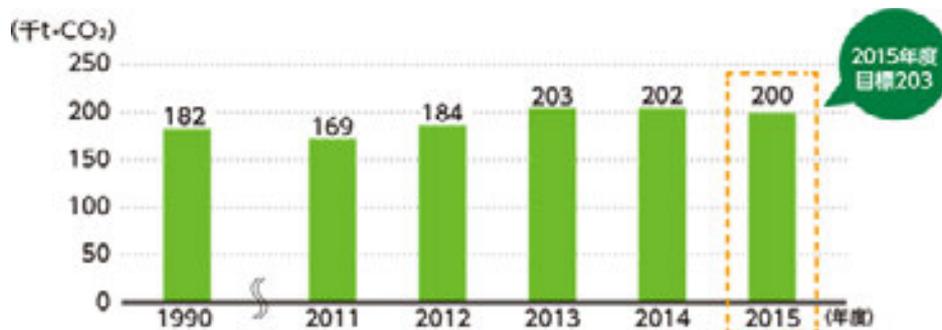
2016年度は、2015年度原単位比で、CO₂排出量は1.6%、電力使用量は0.2%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



※ 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



※1 CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO₂排出係数を乗じて算出しています。

※2 1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2010年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。

※3 上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

|| フロン漏えい防止に向けた取り組み

2015年4月1日より改正フロン法（フロン排出抑制法）が施行され、フロン類の製造から廃棄までの包括的な対策が求められています。リンテックグループでは、各事業所で所有する業務用エアコンや冷凍・冷蔵機器をリスト化し、定期点検を実施するなど、オゾン層保護および地球温暖化防止のためフロン漏えい防止に努めています。

|| 太陽光発電

リンテックでは、太陽光発電システムを本格導入しています。2013年1月から、土居加工工場全工棟の屋根に設置した出力約1,000kWの太陽光発電システムが稼働しました。2013年3月には、吾妻工場にも出力約500kWの太陽光発電システムを設置、稼働しています。これは、両工場合わせ、CO₂削減量換算で年間約500t-CO₂/年に該当します。



土居加工工場に設置された太陽光パネル
(約10,000m²)



吾妻工場に設置された太陽光パネル
(約5,000m²)

|| CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度から2010年度までの5年間で、従来は重油・灯油を燃焼して蒸気を発生させていたボイラ設備の燃料を、CO₂排出量がより少ない都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を進めてきましたが、2011年1月をもって、リンテックの国内工場におけるボイラ設備燃料転換は完了しました。さらに、焼却炉ボイラーへのエコマイザーの設置やVOC処理装置の排熱回収等を進めています。今後は生産条件の見直しやボイラの効率運転などの省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。

2014年10月に龍野工場の焼却炉ボイラーにエコマイザーを設置し、未利用熱回収を実施しました。



龍野工場の焼却炉ボイラーに設置したエコマイザー

|| 排熱ボイラー設置によるエネルギーの有効活用

千葉工場では、2015年12月末にVOC(揮発性有機化合物)を処理するための排ガス処理装置(RTO式)に、2台目の排熱ボイラーを設置して蒸気の回収を行い、CO₂排出量の削減につなげています。



千葉工場に設置した排熱ボイラー

照明用電力の削減

リンテックグループは、継続して省エネルギー活動を推進しています。エネルギー使用量の見える化を推進し、空調管理や休日における待機電力の削減などに取り組んでいます。また、計画的に照明のLED化を進めています。熊谷工場では、2015年に倉庫などの蛍光灯をLEDに変更しました。



LEDへ変更した加工室

Voice 廃棄物の削減・リサイクル活動を推進

マディコ社では、環境保全活動として、廃棄物の削減およびリサイクルに努めています。取り組みの一例として、現在使用している製造装置に改良を加えて、製造プロセスにおける溶剤廃棄物を削減しました。引き続き廃棄物の削減・リサイクル活動を推進していきます。



マディコ社（アメリカ）
環境労働安全衛生部門
Sharon Bolling
（シャロン・ポーリング）

Voice 日々の業務に取り入れたフロン漏えい防止対策

フロン排出抑制法では漏えい量が二酸化炭素換算で1,000トン以上の場合に、保有する対象機器からの漏えい量報告を求められています。環境安全部ではリンテックの漏えい量集計を行っており、2015年度は報告対象外でした。集計の際、工場や支店からは漏えい量だけでなく簡易点検状況の報告もあり、新たな規制への対応を日々の業務に取り入れ、管理されていることを確認しました。



本社 環境安全部 環境安全グループ 係長
木島 典子

地球温暖化防止

物流における取り組み

リンテックは省エネルギー法の定める特定荷主（委託貨物輸送量3,000万トンキロ*1／年以上）に該当しているため、これに対応するための計画を国に提出（年1回）しています。

2015年度の輸送量は1.2%増加しましたが、効率的な輸送に努めた結果、エネルギー使用量は約0.2%、エネルギー使用量原単位（輸送量当たり）も約1.3%減少しました。今後もモーダルシフト*2などの拡大を検討し、引き続き輸送効率向上に取り組んでいきます。

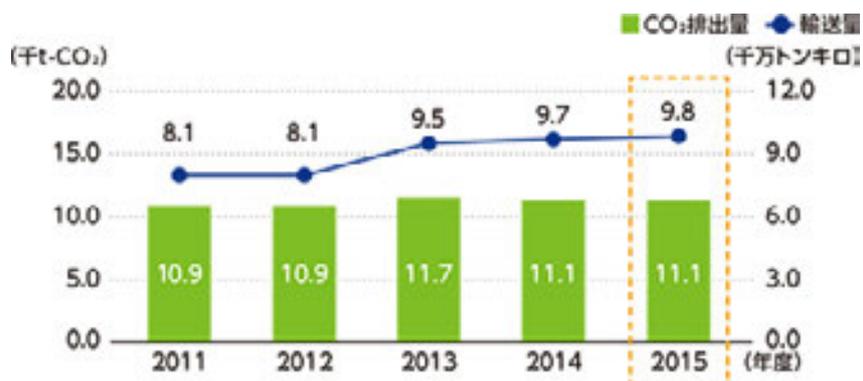
*1 トンキロ：貨物の輸送量を表わす単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

*2 モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO₂排出量削減を図る取り組み

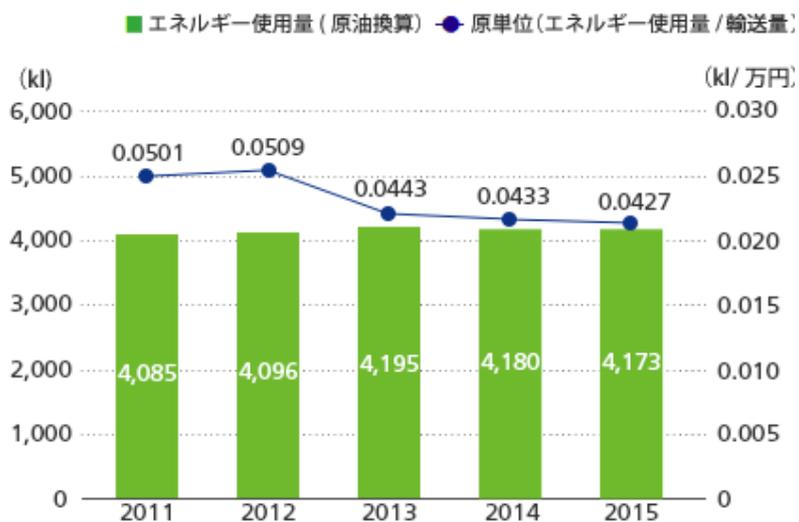


倉庫納入のようす

CO₂排出量と輸送量



エネルギー使用量



廃棄物の削減

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

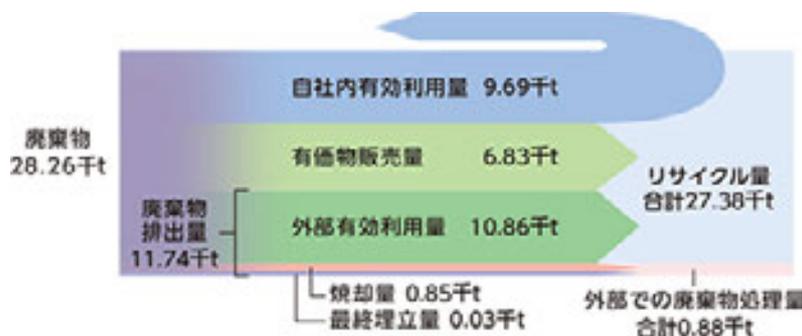
廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックにおける2015年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は28.26千tで、廃棄物排出量は11.74千tとなりました。このうち10.86千tは外部で再資源化され、それ以外の0.88千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。2015年度の最終埋立比率*1は約0.11%となり、目標（0.2%以下）を達成し、2007年度から継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。2016年度における法的な廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

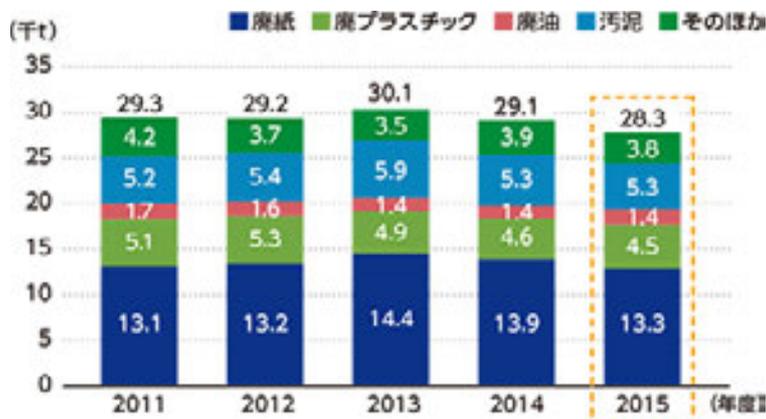
*1 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率＝最終埋立量/廃棄物発生量×100

*2 ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

廃棄物の流れ(2015年度)



廃棄物発生量



リデュースの取り組み

リントックグループ各工場の製造部門では、廃棄物の発生を抑制するため、歩留まりの向上を図っています。

リユースの取り組み

リントック製品の多くはロール状で製造されるため、各工程において巻芯が使用されます。巻芯は製品とともに運搬されますが、一部は回収して工程内でリユースしています。また、製品の運搬に使用されるプラスチックパレットの一部についても、回収してリユースしています。

リサイクルの取り組み

リントックグループでは、2015年度も引き続きマテリアル リサイクル*1とサーマルリサイクル*2に取り組んでいます。龍野工場と熊谷工場では、マテリアルリサイクルに不向きな紙系廃棄物を固形燃料としてサーマルリサイクルしています。また、リントック・インダストリーズ(サラワク)社では、裁断時に発生する断材をリサイクル業者に有価物として売却するなど、各工場が発生する廃棄物を再生資源として利用しています。

*1 マテリアルリサイクル：古紙を再生紙の原料に、空き缶を金属材に、ペットボトルを化学繊維材料にするなど、廃棄物を原料として再利用。サーマルリサイクル以外のリサイクル。

*2 サーマルリサイクル：廃棄物を単に焼却するのではなく、熱や電力として回収したり、燃料にするなど、エネルギーとしての再利用。



固形燃料

Voice 現場改革活動により、廃棄物を削減

リントックグループでは、各工場において生産現場の改善活動に取り組んでいます。千葉工場では、現場改革活動(CIP：Chiba Innovation Project)を行い、薬品やフィルムなどの原材料ロスを低減し、廃棄物を削減するとともに生産性の向上にも結びついています。今後も、以前より実施している3R(リデュース、リユース、リサイクル)を徹底することで、循環型社会の形成に貢献していきます。



千葉工場
工場長付担当係長
金子 奨

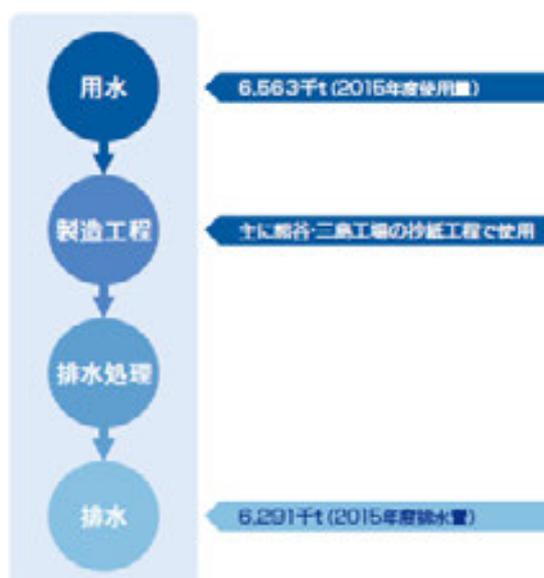
用水使用量の削減と排水対策

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

用水使用量と節水対策

リンテックにおける2015年度の用水使用量は6,563千tでした。このうち約92%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。両工場の用水使用量は、前年対比でやや増加しました。用水原単位（紙生産量当たり）は前年度から0.8%増加しました。継続して各工程で用水使用量の削減に取り組むほか、漏水対策を行っています。2015年度から2016年度は原単位比で対前年度2%削減を目指しています。

用水使用から排水までの工程



用水使用量(熊谷工場・三島工場)



排水量削減

リンテックにおける2015年度の排水量は6,291千t/年でした。その約95%が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における工程使用水の再利用などにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水処理設備の適切な維持管理を行っていきます。



三島工場の排水処理設備

2015年度 排水水質

熊谷工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	7.98	7.18
濃度規制	SS*1(mg/ℓ)	60(50)以下	23.9	10.65
	BOD*2(mg/ℓ)	20以下	1.7	7.7
	COD*3(mg/ℓ)	-	32.1	18.82
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.2293	0.13052
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.215	0.03832
	リン(t/日)	0.0418以下	0.00965	0.00337

※1 BODにおいて、工場の自主基準（熊谷市との協定値）の20mg/ℓを超えたデータが有りましたが、埼玉県の上乗せ規制値は超えておりません。自主基準超過時には熊谷市に報告し対処しました。

三島工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	5.9~8.2	7
濃度規制	SS(mg/ℓ)	80(60)以下	42	4
	COD(mg/ℓ)	90(65)以下	82	23
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.5133	0.2392
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.2009	0.0404
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0030	0.0006

※1 排水基準の()内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。

〈熊谷工場〉BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。

〈三島工場〉pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。

※2 実績の最大値の欄：pHについては最小値～最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

*1 SS：Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。

*2 BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

*3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

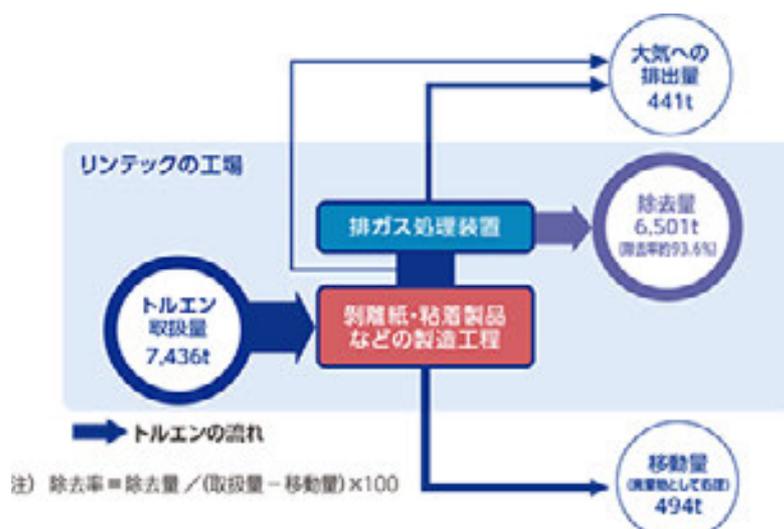
環境負荷化学物質の削減

国内外における環境関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR*への対応

リンテックが2015年度に届け出たPRTR対象物質は10物質で、総取扱量は7,528tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,436tとなり、前年取扱量（7,580t）より144t減少しました。2015年度のトルエンの大気への排出量は441tで前年度排出量（462t）より21t減少し、移動量は494tで前年度（536t）より42t減少しました。

トルエンの排出量・移動量（2015年度）



* PRTR : Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、公表する仕組み。

化学物質管理、EUにおける各種規制への対応

リンテックでは、購入原材料について環境負荷物質含有調査を実施し、必要な情報をお客様に開示しています。製品についてはGHS*1に対応したSDS*2の発行を推進。また、環境規制が厳しくなるEUにおける各種規制への対応を進めています。REACH規則*3やRoHS指令*4における制限物質増加への対応も考慮し、製品含有化学物質の管理（現在の規制対象物質は約6,000物質）をさらに強化していきます。

製品情報提出の流れ



- *1 GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）の略称。化学品の危険有害性に関する国際的な危険有害性分類基準と表示方法に関する仕組み。
- *2 SDS：Safety Data Sheet（安全データシート）の略称。有害性のおそれがある化学物質を含む製品をほかの事業者に譲渡または提供する際に、対象化学物質の取り扱いなどに関する情報を提供するための文書。
- *3 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。
- *4 RoHS指令：電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についてのEUによる指令。

災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練

リンテックグループでは災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練の実施を強化しています。2015年度は三島工場、吾妻工場、熊谷工場、小松島工場、伊奈テクノロジーセンター、研究所、新居浜加工所、千葉工場、龍野工場など各事業所で訓練を実施しました。

PCB*の適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2015年度は高濃度PCB廃棄物を8台、低濃度PCB廃棄物5台を処分しました。2015年12月までに保有台数の再調査を実施し、高濃度廃棄物77台（うち蛍光灯安定器52台）、低濃度廃棄物13台を保有していることを確認しました。今後は、低濃度廃棄物の早期処分を行い、高濃度廃棄物は処分待ちですが、継続して法令に基づき厳重に保管・管理していきます。

2015年度PCBの適正保管・管理状況

事業所名	PCB廃棄物 保管台数(台)	処理施設	委託処理 登録年度	処理完了 予定
熊谷工場	24	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005	2015年度
	6	低濃度廃棄物処理先	-	2016年度
龍野工場	14	蛍光灯安定器 日本環境安全事業(株) 北九州事業所	2015年度	未定
東京リンテック 加工(株)	1	低濃度廃棄物処理先	-	2016年度
研究所	38	蛍光灯安定器 日本環境安全事業(株) 北海道事業所	未定	未定
小松島工場	1	日本環境安全事業(株) 北九州事業所	2015年度	未定
千葉工場	6	低濃度廃棄物処理先	-	2016年度
合計	90（高濃度21台、蛍光灯安定器56台、低濃度13台）			

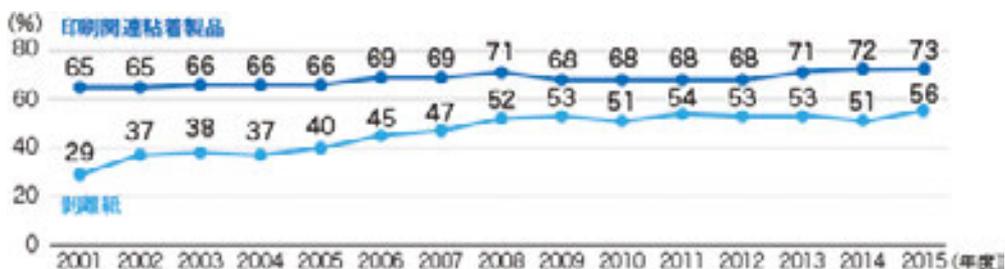
※ 微量PCBは日本環境安全事業(株)では処理を行わないため、民間を含めた委託処理先への登録を予定しています。

* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

無溶剤化率の推移

リンテックでは、VOCの削減を推進しています。製品設計時には、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2015年度の剥離紙の無溶剤化率（生産量ベース）は55.8%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率（販売量ベース）は73%でした。無溶剤化率はほぼ横ばいで推移していますが、環境配慮製品の利点や環境保全をアピールし拡販を推進していきます。また排ガス処理設備の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理と排ガス処理設備の確実な運用で、環境負荷低減に努めていきます。

印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



※1 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

※2 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

Voice 環境負荷低減に向け、作業環境を整備

リンテック・インダストリーズ（サラワク）社では、製品巻き取り用ABSコアを回収し、綺麗に洗浄して再利用するなど、副資材のリユースに取り組んでいます。また、密閉式の自動洗浄機を導入し、作業環境を整備するとともに、使用する溶剤量と廃液量の削減に努めています。



リンテック・インダストリーズ（サラワク）社
（マレーシア）設備部門
James Rigas
（ジェームス・リガス）

環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。2015年度の投資額*1は679百万円、費用額*2は3,145百万円でした。投資額合計については、2014年度と比較して353百万円の増加となっており、新規設備の大気汚染防止や排水処理設備の導入によるものです。費用額合計については、2014年度と比較して258百万円増加となっており、新設計の環境対応製品の開発件数の増加によるものです。

*1 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日
3. 参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

2015年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額	
1.生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するためのコスト	公害防止				
	a.大気汚染削減装置など大気汚染防止のためのコスト	排ガス処理装置	147	大気汚染防止設備維持管理	439
	b.排水処理設備など水質汚濁防止のためのコスト	環境管理棟、排水処理設備	317	水質汚濁防止設備維持管理	128
	c.その他公害防止のためのコスト	高調波電流対策	3	PCB処理、スラッジ処理費	26
	地球環境				
	a.温暖化防止のためのコスト	-	0.042	燃料転換設備維持管理	139
	b.省エネルギー・省資源のためのコスト	排熱ボイラ、ヒートポンプ	169	自家発電設備維持管理	559
	資源循環				
	a.古紙設備など資源の効率的利用のためのコスト	原料回収設備	7	古紙処理設備維持管理、古紙原料化	295
	b.産業廃棄物の減量化・削減・リサイクル・処理のためのコスト	燃料化設備	5	焼却炉ボイラー設備維持管理、産業廃棄物処理	399
2.上・下流コスト	副資材の回収・再生・再利用のためのコスト	-	-	パレットの回収、副資材の返却費用	59
	グリーン調達、環境負荷の少ない原材料等の購入	-	-	環境配慮型事務用品の購入	7

3.管理活動 における環 境保全コス ト	環境管理システム の構築、運用のた めのコスト	-	-	ISO14001 審査・登録、 環境保全組織の運営	313
	環境情報開示	-	-	CSRレポート・サイト制 作、エコプロダクツ出展	27
	大気、水質の分析 費用など環境負荷 の監視・測定のため のコスト	電力・エネルギー監 視システム	22	規制物質の分析・測定	32
	従業員への環境教 育のためのコスト	-	-	セミナー、講習会参加	1
	事業活動に伴う自 然保護、緑化、美 化、景観保持等の 環境改善対策のため のコスト	緑地	8	構内美化、緑地維持管理	29
4.研究開発活動における環境保全コスト	-	-	環境保全に関する研究開 発	674	
5.社会活動コスト	-	-	(財)ひょうご環境創造協 会	0.03	
6.土壌汚染の修復など環境損傷に対 応するコスト	-	-	汚染負荷量賦課金、漁業 補償金	17	
合 計	-	678	-	3,145	

※ 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

2015年度 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		基準期間 (2014年度)	2015 年度	環境保全効果 果 (基準期間と の差)
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	購入電力使用量(原油換算)	千kℓ	36	40	4
	燃料使用量(原油換算)	千kℓ	55	52	-3
	有機溶剤使用量	千t	9.0	8.9	-0.1
	用水使用量	千t	6,504	6,563	59
2. 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	製造におけるCO ₂ 排出量	千t-CO ₂	202	200	-2
	トルエンの大气への排出量	千t	0.462	0.441	-0.02
	廃棄物排出量	千t	11.76	11.74	-0.02
	廃棄物焼却量	千t	0.88	0.85	-0.03
	廃棄物最終埋立処分量	千t	0.06	0.03	-0.03
	総排水量	千t	6,197	6,291	94
	SO _x 排出量	t	6	7.4	1.4
	NO _x 排出量	t	129	88	-41
3. その他の環境保全効果	輸送に伴う燃料使用量(原油換算)	kℓ	4,180	4,173	-7
	輸送に伴うCO ₂ 排出量	千t-CO ₂	11.1	11.1	-0.02
	製品などの輸送量	千万トン	9.7	9.8	0.1

海外グループ会社12社の環境保全活動

リンテックグループでは、グローバル企業としての責任を果たすために、海外グループ会社における環境保全活動にも力を注いでいます。

会社名をクリックすると詳細をご覧いただけます。



琳得科(蘇州) 科技有限公司



工務課
張 旭東
(ザン・シートン)

2015年6月に生物多様性に関する教育・啓発活動を実施しました。教育資料は社内で作成するなど従業員自らが主体的に活動しています。今後も引き続き生物多様性に関する取り組みを継続していきます。

会社概要

所在地：中国 江蘇省蘇州新区

従業員数：219人

主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



品質管理課での生物多様性に関する勉強会のようす

琳得科(天津) 実業有限公司



総務・人事部
賈 軍
(ジャー・ジュン)

従業員のCSR意識啓発を目的に「リンテックグループCSRレポート2015」を研修用テキストとして使用し、全従業員を対象にCSRテストを実施しました。また、従来から使用していた廃棄物および鉄くず保管所の表示を一新するなど、環境改善意識の向上に努めています。

会社概要

所在地：中国 天津市南開区

従業員数：89人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



廃棄物の置き場所を変更し、表示を一新

|| 普林特科（天津）標簽有限公司



品質保証課

張 琨

（ジャン・クン）

廃液削減と節電強化に向け、2015年4月に新しい製版用設備を導入し、廃液は100ℓ/月、電気は200kWh/月の削減効果がありました。また、従業員一人ひとりが動きやすい作業環境の実現に向け、さまざまな取り組みを推進しています。

会社概要

所在地：中国 天津市西青経済開発区

従業員数：92人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



新たに導入した製版用設備

|| リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社



総務課

蔡 清祥

（サイ・セイショウ）

2015年6月に台南県後壁郷の烏樹林退役砂糖工場文化園区で社員ファミリーデー活動を実施し、93人が参加しました。案内係の方より、砂糖工場の歴史や構内の動植物の説明を受け、生物多様性の重要性を学ぶ良い機会となりました。

会社概要

所在地：台湾 台南市善化区

従業員数：94人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



社員ファミリーデーのようす

|| リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社



管理部 工務課

江 徳維

（ジャン・デーウェイ）

工場排水の適切な管理・維持、および節電の強化に向け、2015年度に排水処理設備を増設し、LED照明に交換しました。また、電気や汚水の自動監視システムを導入し、環境保全をより効率的に実施できる体制を整えています。今後も環境保全活動と管理体制を強化していきます。

会社概要

所在地：台湾 高雄市前鎮加工出口区

従業員数：73人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



交換したLED照明

|| リンテック・コリア社



工務課

金 楨仁

（キム・ジョンイン）

製造設備やボイラーの稼働システムなどを改善し、電気と燃料の使用量削減に努めています。その結果、電気は年間約236千kWh、ガスは約249千m³削減され、合わせて約587t/年のCO₂削減につながりました。

会社概要

所在地：韓国 忠清北道清原郡

従業員数：72人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



6台のボイラーを最適な組み合わせで運転管理

|| リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（韓国）社



設備技術部
李 永鎬
(イ・ヨンホ)

2015年8月、VOC（揮発性有機化合物）焼却設備の炉内部にある耐火煉瓦を変更したことで、炉内圧力を適正化し、燃焼効率を改善しました。2015年8月から12月のLNG月平均使用量が35千m³から5.1千m³に削減され、約85%の省エネ効果がありました。年間実績では前年度対比で約35%の低減となります。

会社概要

所在地：韓国 京畿道平澤市

従業員数：127人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



VOC熱焼却設備

|| リンテック・インドネシア社



品質保証部
Shanti
(シャンティ)

2015年5月に、工場敷地内の草刈りを実施し、環境保全活動や従業員同士が協力し合うことの意義を再認識する機会になりました。今後もさまざまな環境保全活動を継続的に実施していきます。

会社概要

所在地：インドネシア 西ジャワ州ボゴール

従業員数：112人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



草刈り活動のようす

|| リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社



生産管理課
Yeoh Gaik Leng
(ヨー・ゲッ・レン)

2015年4月に、ペナン州南部(マレー半島側)の沿岸部で生物多様性の保全活動としてマングローブの植樹を行い、従業員30人が自主的に参加しました。私たちが植えたマングローブが成長し、生物多様性の保全に貢献していくことを楽しみにしています。

会社概要

所在地：マレーシア ペナン州ブキ・メルタジャム

従業員数：92人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



植樹イベントに参加した従業員

|| リンテック・インダストリーズ（サラワク）社



総務人事部門
Michael Benjzi
(マイケル・ベンジ)

2015年9月、森林および生物多様性の保全を目的に、パコ国立公園で植樹を行い、全従業員が参加しました。公園ガイドの方から公園の歴史、地域のコミュニティー活動の説明を受け、自然環境の重要性を改めて認識しました。

会社概要

所在地：マレーシア サラワク州クチン

従業員数：24人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



植樹イベントに参加した従業員

|| リンテック・シンガポール社



QA/QC部門
Sng Seng Leng
(スン・セン・レン)

昨年同様、国立公園庁が運営する基金「ガーデンシティーファンド」への寄付活動を行いました。また、2015年11月に同基金主催の植樹イベントに参加し、国立公園内に16本の植樹を行いました。

会社概要

所在地：シンガポール サイバーハブ

従業員数：90人

主な事業内容：印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



植樹イベントに参加した従業員とその家族

|| マディコ社



工務部門
Paul Malburg
(ポール・メルバーグ)

マディコ社ウーバン工場では、LED照明への交換、ソーラーパネル設置などのエネルギー削減活動を実施しました。その結果、2015年の電力原単位が前年比で13%改善しました。

会社概要

所在地：アメリカ マサチューセッツ州ウーバン

従業員数：215人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



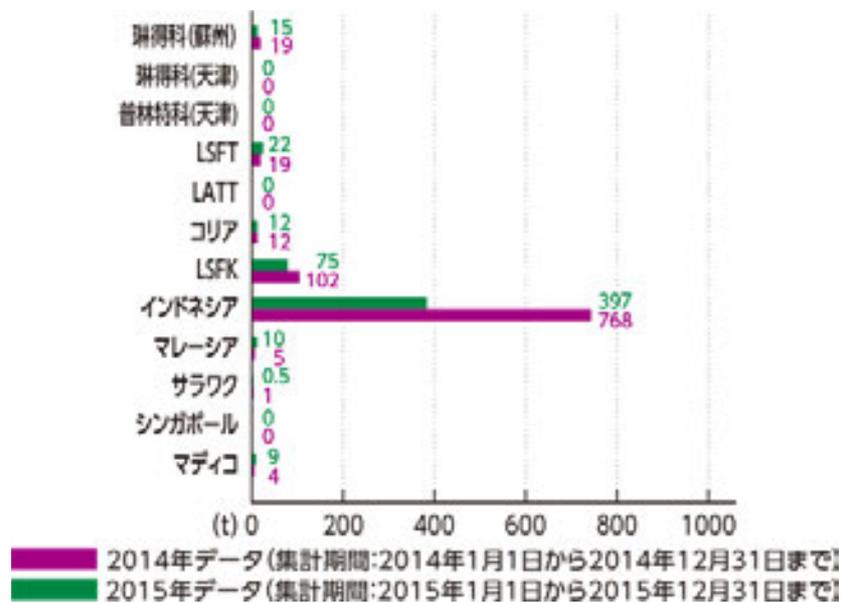
電力原単位改善に貢献したソーラーパネル

海外グループ12社の環境保全活動

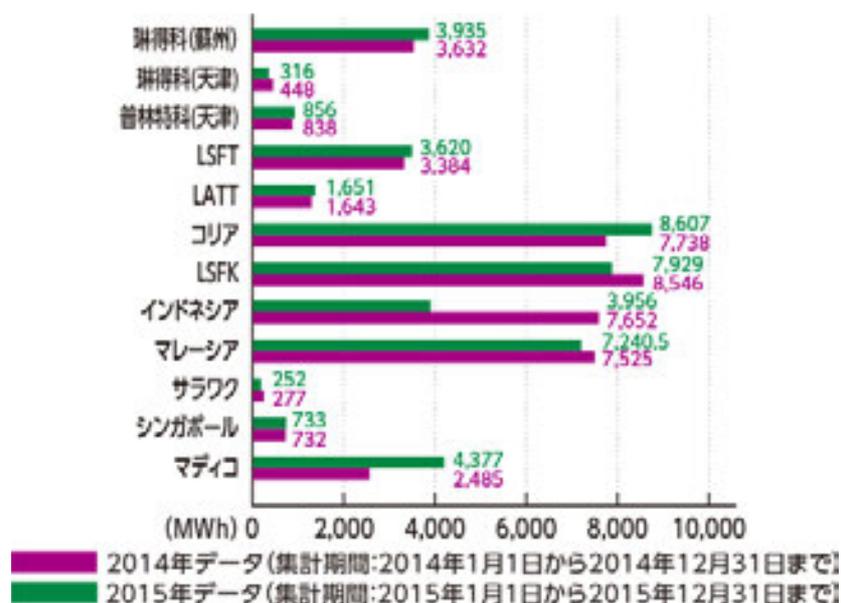
2015年 環境パフォーマンスデータ

海外グループ会社12社における2015年の環境パフォーマンスデータは以下になります。

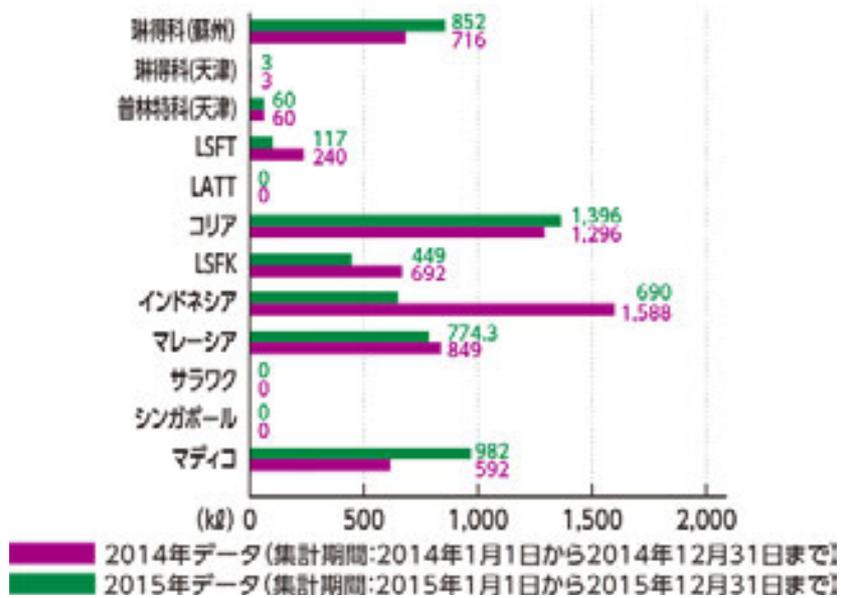
VOC排出量



電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



マディコ社については、2013年1月の合併によりセント・ピーターズバーグ工場を取得、2015年1月にISO14001統合認証を完了し、2015年より同工場のデータを合算しているため、排出量・使用量が増加しています。リンテック・インドネシア社については、生産量が減少したため、各排出量・使用量も減少しています。

※1 VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。

※2 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。

※3 LSFT：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社 LATT：リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社
LSFK：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社

リンテックと環境のかかわり

リンテックグループでは、粘・接着製品や特殊紙、剥離紙などの加工材、粘着関連機器の開発・製造・販売を行っています。これらの事業活動に伴って環境中に排出する廃棄物やCO₂、トルエンなどのPRTR対象物質、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度 マテリアルフロー(国内のみ対象)



*1 OUTPUTには内販は含んでいません。

*2 スコープ1：自社で購入した燃料の使用に伴い直接排出された総CO₂排出量のこと。液化天然ガス(LNG)、プロパンガス(LPG)、都市ガス、酸素、灯油、軽油、ガソリンなど、ガスや液体燃料が対象。

*3 スコープ2：自社で購入したエネルギーを作る際に間接的に排出された総CO₂排出量のこと。電気や蒸気などが対象。

内部統制

リンテックグループ内部統制方針

リンテックグループ各社・各部門は、不正・違法行為・ミスの発生を防止し業務が適正かつ効率的に遂行されるよう、内部統制の整備・運用を強化します。

- リンテックグループのすべての役員・従業員等は、内部統制の整備・運用について役割と義務を負います。
- リンテックグループ各社・各部門は、諸手続きが関連法規、社内規程に則り適正かつ効率的に行われているかを確認するため、適宜自己チェックを実施します。
- 内部監査部門は、独立的立場からリンテックグループ各社・各部門の内部統制が有効かつ効率的に機能しているかを定期的に確認します。

制定 2013年10月1日
リンテック株式会社

コンプライアンス

リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス(法令遵守)」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定

2011年4月改定

品質・環境・事業継続

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、国内外の法令・規制の遵守を含め、あらゆる社会的責任を果たすべく、公正正大かつ革新的な企業活動を実践する。

これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」「行動指針」を定める。

品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

〈行動指針〉

1. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
2. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
3. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
4. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
5. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
6. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
7. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

〈行動指針〉

1. 環境に配慮した製品の開発に努める。
2. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
3. 製品に含有する化学物質の管理を行い、グローバルな環境保全に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

|| 事業継続方針

地震・風水害等の自然災害、火災、パンデミック等、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクの発生に対し、その影響を最小に抑えるため、BCMS(事業継続マネジメントシステム)を構築し、継続的な改善を図る。

〈行動指針〉

1. グループ社員およびその家族の安全確保を最優先する。
2. 減災対策を常に意識し、事業への影響を最小化する。
3. 災害発生に対し、主要製品の速やかな供給再開により顧客への供給責任を果たす。
4. 被災地域の復興に貢献する。
5. BCMSのさらなる向上を目指し、PDCAを回して継続的な改善を図る。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

2013年9月1日 品質・環境・事業継続方針制定

2014年1月1日 品質・環境・事業継続方針改定

2014年4月1日 品質・環境・事業継続方針改定

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

調達

リンテック原材料調達基本方針

1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理、紛争鉱物など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

2013年8月30日改定

調達

リンテックグリーン調達方針

1. 取引先の皆様とともに、当社製品を構成する原材料や部品、副資材などの化学物質管理を推進します。
2. 積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進している取引先の皆様から、環境負荷のより少ない原材料や部品、副資材などを優先的に調達するよう努めます。
3. サプライチェーンマネジメントの観点から、取引先の皆様にも、それぞれの仕入先様とともに積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進することを求めます。
4. 「リンテック木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2006年6月1日制定

2009年8月10日改定

調達

リンテック木材パルプ調達方針

1. 調達方針および取り組み

- (1) 違法伐採対策として、以下に該当する木材パルプを調達しません。
 - (a) 違法に伐採された木材を原料にしたパルプ
 - (b) 伝統的権利または市民権が侵害されている地域からの木材を原料にしたパルプ
 - (c) 保護価値が高い森林からの木材を原料にしたパルプ
 - (d) 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林からの木材を原料にしたパルプ
 - (e) 遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材を原料にしたパルプ
- (2) グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2. 合法性の確認

- (1) 「調達方針および取り組み」各事項の趣旨に則った自己宣言書を各取引先から入手します。
- (2) 木材パルプの調達に当たって、取引先から木材原料の伐採地域・樹種・数量などを記載したトレーサビリティレポートを入手します。
- (3) 関連資料については、5年間保存し、監査などの必要に応じて開示します。
- (4) 取り組み状況について、定期的に内部監査および日本製紙連合会によるモニタリング(調査および監査)を実施し、その概要をホームページなどで公表します。

2009年8月10日制定

2010年6月1日改定

2010年8月23日改定

▶ 2014年度における取り組み状況[PDF：141KB] 

調達

グリーンパルプ・ウェイ

|| グリーンパルプ・ウェイ(Green-Pulp-Way)

グリーンパルプ・ウェイとは当社の環境配慮コンセプトです。同コンセプトに基づき特殊紙ならびにラベル用紙の製品設計・製造を行い、「地球環境への負荷を低減し、豊かな緑を未来へ残す」ことを目指します。

|| グリーンパルプ(Green Pulp)

グリーンパルプは当社の登録商標です。グリーンパルプは、合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ(森林認証パルプ、植林木パルプを含む)、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白(ECF)により製造されたパルプです。

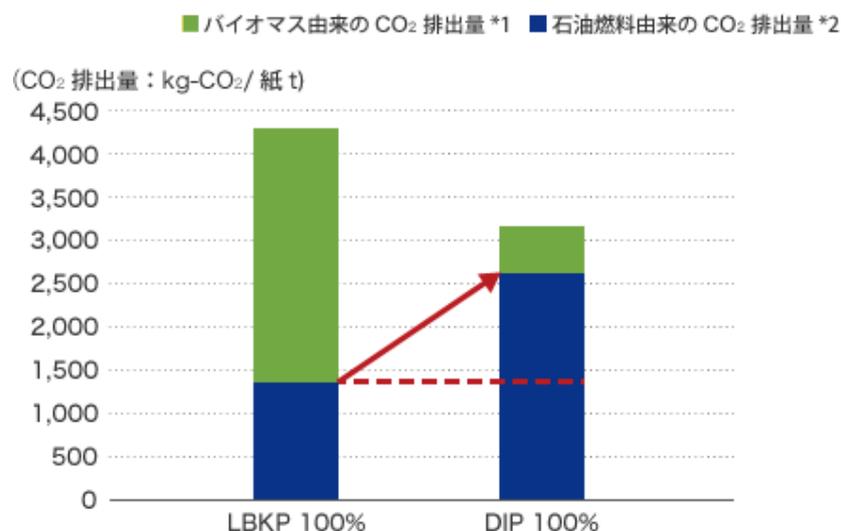
|| グリーンパルプ・ウェイの背景

当社は資源を有効利用する取り組みとして、古紙を原料とする再生紙の生産を積極的に進めてまいりました。一般に古紙を高配合すると品質(例えば強度)が低下することから、当社では厳選した良質な古紙を使用し、さまざまな要求品質を満たしてきました。しかし、ここへ来て中国などにおける古紙の需要増大による影響で、質を問わず古紙そのものの入手が非常に難しくなっており、古紙配合率の見直しが必要となってきました。

一方、近年急激に進行している地球温暖化は、自然の生態系や人間の生活基盤にさまざまな悪影響を及ぼすことから、世界的に早急な温暖化防止対策が望まれています。地球温暖化の主原因は、化石燃料を使用することによる大気中の二酸化炭素(CO₂)の増加といわれており、森林はCO₂を固定することでその増加を抑制する効果があります。このため、適切に管理された森林からの木材を使用し、森林資源を保護していくことが地球温暖化の防止につながります。また、紙の製造工程においてはこれらの木材を原料としたパルプ(クラフトパルプ)を使用したときの方が、古紙パルプを使用した場合より化石燃料由来のCO₂排出量が少ないと報告されています。資源の有効利用の観点から古紙を使用することは重要ですが、古紙パルプを過度に高配合した紙をつくることは、結果として温室効果ガスであるCO₂の大気中への排出量増加につながります。

これらを踏まえ、当社はグリーンパルプを主原料にし、古紙パルプを使用する場合には要求品質に応じて最適に配合した製品を提供してまいります。なお、パルプ以外の原材料や副資材についても環境に配慮した選択と設計を行ってまいります。

クラフトパルプ(LBKP)と古紙パルプ(DIP)から上質紙1トンを製造する際のCO₂排出量



※(財)古紙再生促進センター、「古紙利用と環境影響に係る調査報告書」2001.3に基づき作成

*1 バイオマス由来のCO₂排出量とは、植物などの生物体が燃焼したときに排出されるCO₂量のことです。クラフトパルプの場合、木材に含まれるリグニン成分などをバイオマス燃料として製造工程で利用して必要なエネルギーの多くを賄うことができます。バイオマス燃料から排出されるCO₂は、木材の成長過程で固定した大気中のCO₂を再度排出するため、大気中のCO₂濃度を高めることはありません。

*2 化石燃料由来のCO₂排出量とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって排出されるCO₂量のことです。古紙パルプの化石燃料由来によるCO₂排出量は、図のようにクラフトパルプの約2倍量に達します。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生方針

リンテックグループ全社員は、社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、労働災害の防止を図り、安全で快適な職場環境の形成と安全衛生水準の向上を適切かつ積極的に推進します。

1. 事業活動において、リンテックグループで働く人々の労働安全衛生を適切に推進します。
2. リンテックグループで働く人々の協力の下、労働災害および疾病の予防、健康維持と増進を継続的に推進します。
3. 生産現場におけるリスク評価を実施し、労働安全目標を定め、目標達成のための計画と活動および定期的な見直しによる改善を行います。
4. 労働安全衛生に関する法令、リンテックが同意する協定、指導などを遵守します。
5. リンテックグループで働く人々に対し、労働安全衛生に関する教育および啓蒙活動により、安全衛生確保の重要性と意識の向上を図ります。

2010年10月1日制定

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

■ 計画(Plan)

法令／安全衛生計画、安全衛生目標など

■ 実施および運用(Do)

組織、役割、責任および権限／力量、教育訓練および自覚／コミュニケーションなど

■ 点検(点検・パトロール、改善)(Check)

監視および測定／内部監査など

■ 経営層による見直し(Action)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

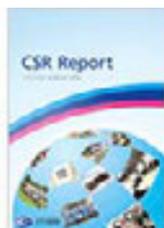
Linking your dreams **リンテック株式会社**

編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、冊子では2015年度の活動を中心に報告しています。特集では、環境負荷削減の一環として「モーダルシフトの取り組み」、CSRと事業の融合を目指した「CSRワークショップ」について取り上げました。冊子は、ステークホルダー*とリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲載しています。より詳細な情報はCSRサイトをご覧ください。

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア



CSRレポート（冊子／PDF版）

■【冊子】

リンテックグループのCSR活動を、分かりやすく掲載。

■【PDF版】

英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



CSRサイト

リンテックグループのCSR活動を、より幅広くより詳細に掲載。

■【日本語版】

▶ <http://www.lintec.co.jp/csr/>

■【英語版】

▶ <http://www.lintec-global.com/csr/> 

参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

ISO26000(社会的責任に関するガイダンス規格)

対象期間

原則2015年4月1日～2016年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2016年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社12社の環境パフォーマンスデータについては、2015年1月1日～2015年12月31日を対象期間としています。

対象範囲とその表記

CSRサイト中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

■ 企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック（株）

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

■ 環境報告

「リンテック」：リンテック（株）の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工（株）

「リンテックグループおよび海外グループ会社12社」：上記および海外グループ会社12社*

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

* 海外グループ会社12社：琳得科（蘇州）科技有限公司、琳得科（天津）実業有限公司、普林特科（天津）標簽有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インドネシア・インダストリーズ（マレーシア）社、リンテック・インドネシア・インダストリーズ（サラワク）社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、LINTEC(THAILAND)CO.,LTD.、LINTEC KOREA,INC.ほか28社の決算日は12月末日です。作成に当たっては、連結子会社30社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

報告内容の信頼性確保

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

★マークについては[こちら](#)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

第三者意見

いわゆる「日本型CSR」に私は危惧の念を抱いています。コンプライアンス偏重型、チェックシート方式のものがあまりにも多く、それでは持続可能な社会へのパラダイムシフトを起こすというCSR本来の役割が全く果たせないからです。一方リンテック社のCSRは、社是「至誠と創造」を根幹に、CSRの世界標準に肉薄する可能性を秘めています。

トップメッセージにおいて、至誠の到達点はステークホルダーとの信頼関係にあるという認識が明確に述べられています。創造とは、CSRを原動力として社会イノベーションを起こすことと考えられており、その証左が特集2に見られるCSRワークショップの開催です。「継続は力なり。」こうした地道な努力の積み重ねが、新たなビジネスモデルの誕生、それを通じた社会変革につながると私は確信します。

2015年度の活動を振り返るなら、マテリアリティに関する目標と主要な評価指標とが策定されたこと、財務情報に加えて非財務情報が併記されたことが、特筆すべき成果と思われます。今後、前者に関しては指標を活用してCSR経営のPDCAサイクルをより精緻に回していくこと、後者においては非財務情報のさらなる拡充を望みます。

特集1のモーダルシフトは地味ですが、大事な活動です。製造業において、物流のCO₂発生は意外と大きいからです。後の環境報告における事業と環境活動において、リンテックグループのインプット・アウトプット量をせつかく明示されたのですから、物流も含めてどの事業プロセスにおいてどの程度の負荷が発生しているのか、読者が全体像をより明瞭に俯瞰できるLCA的観点からの解説があってもよかったのではないのでしょうか。

最後に提言があります。現行のCSR推進体制を拝見すると、CSR推進室を事務局に、5つのCSR委員会が構成され、担当役員が置かれ、年度毎の活動が着実に行われていることがわかります。今後はこれらの活動をマテリアリティと連動させ、一体化させていくことが肝要です。

さらに言うなら、ここでの活動テーマの多くは「守りのCSR」です。私は第6のCSR委員会を加え、前述のCSRワークショップと連携し、「攻めのCSR」を全社的に展開されていくことを提言したいと思います。そのことが、「至誠」を基盤としつつ、「創造」の翼をよりダイナミックに羽ばたかせることにつながると信じるからです。



ジャパン・フォー・サステナビリティ
多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを歴任。

多田様には2012年度版より当社CSRレポートに対してご助言を頂戴しております。
当社グループのCSR活動への取り組みをご理解いただき、誠にありがとうございます。

創造から成る「攻めのCSR」に直結するCSRワークショップはまだ手探りの状態ですが、継続することにより人材の育成やビジネスモデルの新たな発想も生まれてくると信じています。地道に積み重ねることでCSR活動をイノベーションエンジンに変えていけるように進めていきます。

マテリアリティの特定に沿った活動は、社会とともに持続的成長を目指す当社にとって重要な活動です。目標と主要な評価指標を策定しPDCAサイクルを回すことにより、社会的責任を果たすとともに機会創出なども含めた好循環が生まれてくるものと期待しています。

モーダルシフトはスタート地点に立った段階ですが、営業部門が関連部門と連携を取りながら環境保全への取り組みを意識することで、さらに発展していくものと考えています。

推進担当役員を配したCSR委員会は、当社のCSR活動を支える重要な活動になっており、これらの活動をマテリアリティとも連動させ、職制とも連携を取りながら進めていきます。

また、CSR委員会へのご提言につきましては、CSRワークショップの進捗状況を確認しながら、さらに強化すべきタイミングに合わせて検討したく存じます。

今後もCSR経営を基本姿勢とした企業活動を強化・推進し、だれからも評価され、信頼される企業を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

トップメッセージでは社是「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、社会に貢献していくことについて触れています。また、特集1では、環境負荷低減の取り組みとして「モーダルシフトの推進」を紹介しています。

特集2は、CSRと事業の融合を目指した「CSRワークショップ」について掲載しました。

ステークホルダーの期待に応えられるようにCSR活動を継続していきます。



「リンテックグループCSRレポート2016」
制作プロジェクトメンバー

第三者検証

リンテックグループCSRレポート2016の★マークのついたパフォーマンスデータについて、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

▶ 検証意見書 [PDF : 189KB] 

